

# 大阪薬科大学報

Osaka University of Pharmaceutical Sciences



2011年（平成23年）6月30日発行

63

# C O N T E N T S

新入生へのメッセージ「薬の光と陰～薬剤師の果たすべき役割～」	学長	千熊 正彦・他	3
在学生へのメッセージ「私の学生時代ー悩める君にー」	自然学グループ 教授	土井 勝	6
平成22年度の実務実習を終えて	実務実習実施部会責任者	長船 芳和	7
平成22年度CBTを終えて	CBT実施部会責任者	井上 晴嗣	9
平成22年度OSCEを終えて	OSCE実施部会責任者	恩田 光子	10
第58回公開教育講座	公開教育講座委員会		11
平成23年度市民講座（三大学連携事業）	市民講座委員長	天野富美夫	12
就任のご挨拶	臨床実践薬学教育研究室 教授（特任）	長谷川健次・他	13
研究室の紹介（薬品物理化学／医薬品化学／環境分子生理学）			16
平成22年度進路・就職状況（大学院）	キャリアサポート部長	藤田 芳一	19
第5回日仏生命倫理会議に参加して	総合科学系環境医療学グループ 教授	松島 哲久	20
ハイテクリサーチセンター報告	ハイテクリサーチセンター長	小林 祐次	21
三大学医工薬連環科学教育研究機構の活動状況（その2）	教授（特任）	梶本 哲也	24
平成22年度学校法人決算及び平成23年度学校法人予算	事務局長	田部 信重	25
学生相談室だより	学生相談室相談員	川端 康雄	28
教員研究業績（2010年）			29
薬用植物の紹介（ボタン）	薬用植物園長	田中 麗子	48

---

事務局だより	総務課（研究管理支援室）	37
	経理課	41
	教務課	41
	入試課	42
	学生課（健康管理支援室）	44
	キャリアサポート課	46
	図書課	47





## 薬の光と陰 ～薬剤師の果たすべき役割～

学長 千熊 正彦

学部および大学院の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。学部新入生におかれましては入学以来、同級生、先輩など、新しい友人たちと大学生活を満喫して、本学に入学してよかったと満足していただいていると思います。

新入生の皆さんにとって、平成23年は日本が未曾有の大震災を受けたことで、決して忘れることのできない年となるでしょう。TV画面で報道される津波による被害の甚大さに、我々は息を呑むばかりでした。さらに、食料、電気、石油、などといった生命の維持に必要な物資が被災した人々に届かないといった焦燥感も味わいました。

福島の原子力発電所の被災には世界中の人々が関心を向けています。原子力発電は、近代社会における両刃の剣であります。石油が有限の資源であることが明白ですから、我々が現在の生活水準を維持しようと思えば、原子力発電は必須のもの、あるいはできることなら使いたくないが、最小限の原発はやむを得ないと考える人が多いからこそ世界中で原発が稼働しているのでしょう。1979年の米国ペンシルバニア州スリーマイル島の原発事故、1986年のチェルノブイリの原発事故に続いての今回の事故から、原子力発電が近代テクノロジーの是非かを問う大きな課題の一つであることを改めて実感しました。

科学は人間にとって益にも害にもなります。医薬品にも同じような問題があることを、我々は薬の歴史の中で学んできました。薬も両刃の剣であります。病気を治すはずの薬により思いがけない被害を受けた、サリドマイドやキノホルムの事件あるいは薬物の相互作用に基づくソリブジン事件など不幸な出来事がありました。例えば、サリドマイドは1960年前後に主に睡眠剤として欧州や日本で販売された薬です。ところがこの薬を妊娠初期に服用した母親から手や足などに障害のある子供が誕生したのです。これに気づいた西ドイツ（当時）の医師レント博士がサリドマイドの危険性を警告し、欧州各地ではすぐに薬の販売中止と回収が行われました。しかし、日本で薬の発売中止が発表されたのは、西ドイツよりも10ヶ月ほど遅れました。当時は薬の副作用が胎児

に及ぶことがあるとの認識は不十分でした。これを契機に胎児への影響の確認（動物実験）が義務付けられました。また、副作用の発生を監視する制度がつくられるなど薬の安全性の確認がより注意深くなされるようになりました。

サリドマイドは、分子の中に1個の不斉炭素をもつのでR体とS体の鏡像異性体が存在します。市販のサリドマイドは等量のR体とS体が混ざった状態のラセミ体で、S体は非常に高い催奇性を持つが、R体は催眠作用のみを持ち無害であるという研究報告がなされました。しかし、後にR体のみを投与しても比較的速やかに動物体内でラセミ化されることがわかり、結局は催奇性を防ぐことは難しいと結論されました。この薬により多くの国で被害者が出ましたが、米国では、既に多くの国で販売されていたこの薬に関するデータに疑問を持った1人の審査官が追加資料の提出を求めている間に事件が明らかになり、承認されませんでした。

薬に光と陰があることを示したこの事件は、薬に関わるすべての者に、科学者の社会的責任、情報開示のあり方など、厳しい問いを突きつけています。そして我々にいろいろな教訓を与え、科学的に興味深い事実を教えてください。新入生の皆さんもこれらの事件の詳細を図書館やウェブで調べてみられることをお勧めします。

日常的に医療に用いられている医薬品も適正に服用しなければ副作用が生じます。どんな副作用でも患者にとってはつらいものです。薬を適正に使ううえで、薬剤師の職務が極めて重要であることが認識され、それが薬剤師養成教育の年限を6年に延長する要因の一つになっています。薬をつくる製薬会社、薬を承認する国、薬を処方する医師、調剤して服薬指導する薬剤師、それぞれが薬を適正に使用するために注意する必要があります。新入生の皆さんは、卒業後、薬に関する広い分野の職業に就き、薬の専門家として活躍します。薬の専門家には、知識や技術とともに患者や国民の健康を護るという確固たる信念が要求されることを肝に銘じて、薬の勉強を生涯にわたって続けていただきたいと思います。

本年度は310名の学生が入学し、早くも3カ月が過ぎようとしています。本学での学生生活にも慣れ、勉強やクラブ活動等に打ち込んでいることと思います。

さて、教務部長として大阪薬科大学でのこれからの学生生活にとって重要だと思われる点について述べたいと思います。

### 1. 高い志をもって学生生活を送る

皆さんはどのような思いで大阪薬科大学に入学してこられたのでしょうか。明確な目標をもって入学された人もいるでしょうが、なかにはなんとなく入学された人もいるでしょう。きっかけは何であれ、重要なことはこれからの6年間（薬学科）または4年間（薬科学科）の学部生活で、自らの進むべき道を明確にさせていただきたいと思います。目標ができれば、その目標を達成するための具体的な方策を立案することができます。多くの新入生は漠然とした将来の夢や希望を持っていることと思いますが、自分自身の生きる道を一生懸命模索し、具現化する努力をしていただきたいと思います。このような努力をしている学生は、楽しく充実した学生生活を送ることができます。

### 2. 自己の能力に限界を設けない

本学の学生は優秀かつ高い潜在能力を持っています。しかしながら、自己の能力を過小評価し、かつ努力することを嫌う学生が昨今少なからずいるように思えてなりません。このような学生は、ほどほどの努力でほどほどの結果が得られれば、満足しているように見えます。人間は易きに流れるのが常ですが、今苦勞して後で笑うか、今楽をして後で泣くかは個々の学生の自由です。新入生の皆さん、あなたはどちらを選択しますか。大学での生活は人生の一部しか占めませんが、人の一生を決定する非常に重大な時期であるといっても過言ではありません。新入生の皆さん、もう一度自己を見つめ直し、何事に対しても積極的に行動し、自己の能力の限界に挑戦してください。このような学生が増え、周囲に刺激を与えることにより、大阪薬科大学は発展していくものと思います。

### 3. 真剣に考えながら勉強することが学生の本分である

1年次に配当される科目は、基礎教育科目、基礎薬学科目、医療薬学科目、および実習から構成されています。これらの科目のうち、基礎教育科目の占める割合が多く、新入生の中には、高校の授業の延長のように感じている人もいるかもしれません。本学は多様な入学試験制度を採用していることから、資質の異なる多様な学生が入学してきます。このバラツキを補正するために、充実した基礎教育科目を提供しております。これらの科目の中には、すでに高校で履修した内容と重複するところがあるかもしれませんが、今までの受験勉強とは異なり、違った視点からもう一段掘り下げて内容を理解するように努めてください。新しい発見があるかもしれません。このように1年次のカリキュラムは、学生に余力を与える編成になっています。しかしながら、過度のアルバイトや不規則な生活態度を続けると、2年次以降明らかに衰退の道を辿ることになります。夜更かしや朝寝坊の結果、授業を欠席し、授業内容が理解できずについていけなくなった、その先にあるものは、留年、退学です。このような結末に至らないために、1年次にしっかりと生活習慣を身につけておくことが肝要です。新入生の皆さん、学生生活を悔いなく存分に謳歌してください。われわれ教職員一同は、皆さんの学生生活を応援させていただきます。

## 今の今からキャリアアップにチャレンジしよう!!

フレッシュマンの皆さん、入学おめでとう! 私も本学卒業ですので皆さんの先輩となることは、大変嬉しく思っています。さて、薬科大学は医療系大学であることはいまでもありません。それでは医療って…? 最近のテレビ番組で最も視聴率の高いのは、TBSの“JIN -仁-”という番組だったと思います。南方仁という現代の脳外科医が幕末にタイムスリップして、乏しい医療環境の中、医師としての使命感から献身的に人々を救うという設定でしたね。この頃つくづく思うのですが、医療とはmedical serviceであり、儒教における最重要な「五常の徳」の中でも最高に位置する「仁」（他人に対する親愛の情、優しさ）を臨床の場で実践することが医療であると考えています。この「仁」を涵養するためには、大学時代に自己の知性、感性、品性を磨くことがなにより大切で、そして「知性・感性・品性」の三つをバランス良く兼ね備えた医療人、薬学人に成長することが、社会から付託された皆さんの使命ではないでしょうか。これらをできるだけ早く身につける努力をすることは、取りも直さず自分自身のキャリアアップに通じ、Best、Betterの就職を勝ち取ることになると思います。「巧遅は拙速に如かず」といいます。皆さん、今の今からキャリアアップにチャレンジして、医療における「仁」を行いましょう! 大いに期待していますよ。

## 新入生に寄せる言葉

学生部長 楠瀬 健昭

学び舎に 若人（わこうど）迎え 山笑う

春四月、新入生を迎え、大学は新たなエネルギーを吸収し、新たな一年を迎える。春三月、卒業生を送り出した学園にとって、四月は新たな「よろこび」のときである。学校とは、学生と教職員が集い、高い志（こころざし）を持って、互いに学び合い、人間としての可能性を高めていく場である。もちろん、学びの場としての、教室、研究室、図書館、体育館、運動場などが必要なことは言うまでもない。しかし、大切なのは、学びの場における、人と人とのふれあいであり、教を請うものと教えるものとのコラボレーションであり、学ぶものと学ぶものとの切磋琢磨（せつさたくま）である。

日本に、そして世界に、数ある大学の中から、本学に入学することは、必然でもあり、偶然であるとも言えるが、この共同体の一員となった以上、人と人とのめぐりあいを大切に、大人になるために重要な、この6年間の中で、高い倫理観を身につけ、ともに人として成長し、一生つきあえる友を得られんことを祈る。

キリストは「Do unto others as you would have them do unto you.（あなたが人にしてもらいたいように、あなたも人にしなさい）」と教え、孔子は「己の欲せざるところ、他に施すことなかれ（自分が好まないことを、他人に無理強いしてはいけない）」と教えた。人には、「やってはいけないこと」、「やるべきこと」がある。

法律で定められたことを守ること、大学の規則に従うことは、当然のことである。しかし、人は時として、守るべきことを守れないことがある。その場合は、速やかにあやまちを認め、悔い改めることである。だが、こうした法的に「やってはいけないこと」をやらないだけでなく、人として倫理的に「やってはいけないこと」をやらないことが大切である。学生としての本分をわきまえること、時間を守ることは、当然「やるべきこと」である。しかし、やらなくてもいいが、「やるべきこと」もある。できれば、そうしたことが、できる人になりたいものである。平成23年東北地方太平洋沖地震に際し、いち早く現地で放射能測定を行い公表する人、ボランティア活動に参加する人、募金活動に参加する人である。

## 図書館を大いに利用しよう！

図書館長 三野 芳紀

「学生に愛される図書館」を目指しています。皆様のご意見・ご感想など是非お聞かせください！以下に、最近のニュースを紹介します。

## ①自宅からの蔵書検索が可能に

昨年まで学内に限られていた本学図書館の蔵書検索が自宅のPCからでも可能になりました。図書・DVDなどを簡単に検索できます。勉学に大いに役立ててください。

## ②医療系DVDの利用を

「病気の基礎知識：病気の成因・病態と治療」全10巻、「目で見る解剖と生理」全15巻などの最新医療系教材を時間的余裕のある低学年時に見ておきましょう。その後の授業、セミナー等で役立ちます。また、教養・娯楽関連の資料も充実していますので、新着図書・DVDコーナー（受付カウンター前）で要チェック。

## ③「教科書・参考書コーナー」が充実

昨年度から、4階に「教科書・参考書コーナー」を設置しています。1～6の各年次別の「教科書・参考書（各教員指定）」を一ヶ所に集めて配架していますので、学生からは「勉強しやすい！」と好評です。このコーナーを利用して、試験の準備を始めましょう。

## ④新聞のデータが利用可能に

「聞蔵Ⅱビジュアル」（朝日新聞社）と「ヨミダス文書館」（読売新聞社）が利用可能になりました。新聞だけでなく、関連の週刊誌、辞書などのデータもキーワードで検索できます。セミナー、発表会、レポート作成等、様々な場面の利用が期待されます。

## ⑤「メディカルオンライン」が利用可能に

国内の学会・出版社発行の医学関連分野の論文の検索、全文閲覧、ダウンロードが可能なデータベースです。高学年での医療系の授業、実習等に活用できます。

## ⑥「コスメテックジャパン」を新規購入

化粧品業界を品質管理・商品開発・マーケティングの視点で捉える情報誌（6月15日創刊）です。化粧品業界は薬学部卒業生を歓迎しています。この情報誌は、皆さんが化粧品関連の企業に就職するきっかけになるかも知れません。

図書館のサービス概要は、ホームページで確認できます。『図書館利用案内』を熟読し、図書館を大いに利用しましょう！

## 私の学生時代 — 悩める君に —

自然科学グループ 教授 土井 勝



私の大学入学は、1965年(新幹線営業開始と東京オリンピックの翌年)である。日本は高度経済成長期にあり、公害など綻びが目立ち始めていたが、社会に活気が、前途に希望があった。国家が科学技術立国を目指したことで、

当時は理工系に光が当たることが多かった。私は子供の頃から理科に関心が強かったし、高校時代には理屈の通らないものを暗記することが苦痛になった。私は理系に進むことにいささかの躊躇もなかった。

理系の中でも、実学や応用分野より、原理的で純粹な理学に惹かれた。とりわけ、複雑な自然現象を論理で明快に説明できる理論物理学に魅せられ、真理を探求する学究生活にあこがれた。中間子論で湯川秀樹博士がノーベル物理学賞を受けたことも刺激だった。私は、誰に相談することもなく、無謀にも夢だけを追って、大阪大学理学部の物理学科に出席し、入学した(写真は当時の私である)。

大学時代に、ベトナム戦争と反戦運動、中国の文化大革命、全国的な大学紛争など、学生を巻き込む歴史的な事件が続いた(ビートルズの来日も、この頃である)。大学構内は、学生運動の立て看板が並び、ビラが舞い、アジ演説のスピーカーが鳴って、いつも騒然としていた。学友の中には、運動に身を投じ、学業優良にもかかわらず留年を選ぶ者さえいた。未熟な私は、確たる政治信条も意見も持たず、事件の意味を把握できないまま(渦中であって本質は見えない。事件の評価が定まったのは、終息して何年も後である)、学生運動に意義を見いだせず、一定の距離を置いた。

一方で私は、受験勉強のために読書の機会を持たず、自己の確立が十分でないことを密かに恥じた。先賢に学び、成長したいと思った。岡潔氏(異彩の数学者)の『春宵十話』をはじめとする随筆から、時に流されぬ独自の思想と世俗を離れた孤高な生き方に、また末川博氏(法学者)の自伝『彼の歩んだ道』から、悩み抜いた学生時代とその後の気骨ある生き方に、それぞれ強い感銘を受けた。哲学者(三木清、阿部次郎、亀井勝一郎など)の人生論に触れ、文豪(漱石、藤村、鷗外、芥川、太宰、三島やドストエフスキー、ゲーテ、ヘッセ、ハーディ、ホーソンなど)の作品を耽読した(内容が重く、読破できなかったものもある)。多感で迷いが多かったせいだろう、自虐的で破滅的な太宰文学に引かれ、全集をそろえて読んだ。漱石を愛読し、特に『こころ』は、下宿のお嬢さんを恋慕う青年の葛藤と死を扱ったものだが、自身を青年に重ね合わせ、幾度も読んだ。こうした経験は、私の人間形成に与るところ少なくなかったと思う。

当時の大学は2年間ずつ教養課程と専門課程に分かれ、理系学生は、教養課程で第一、二外国語(週2コマずつ2年間)、人文系科目と社会系科目(3科目ずつ通年)を履修した。人文・社会系科目では、先生の講述をノートに要約するのだが、まったく思うようにできず、自分の言語能力のなさを思い知った。正直に言うと、当時の私は教養科目に興味を持たず、その大切さに気付いたのはずっと後である。解らないままに聞いた断片が脳裏に残り、時に興味が刺激され、改めて自分で知識を得ることで世界が広がる。教養の滋味はすぐには現れないものだ。まずは役立ちそうに思えなくても、できるだけ広く触れておくがよい。

専門科目については、私を含め同期生の大多数が大学院に進学し研究者になることを目指しており、一様によく勉強した(1割の者は、関心が外に向き、中退した)。先生方も、入学当初から、学生をそのつもりで扱った。しかし、講義に寄せる先生の熱意は、概して篤くなかった。研究中心であったし、「解らなければ自分で調べて解決せよ」という姿勢であった。教科書を挙げて、「これをマスターすれば、講義に出なくてよい」と公言する先生もあった。教授室はいかめしく、学部学生が気軽に訪れ質問できる雰囲気ではなかった。

学徒としての私は、生きるために是が非でも修得すべきものとして、熱心に物理学に取り組んだ。学校の授業より書物で独習するのが高校時代からの私の流儀で、講義の出席には熱心でなかった。幸い物理学では、修得しなければならぬ基礎、そのための評価の高い教科書が定まっており、これらをマスターすることで実力を養うことができる。しかし、世界的評価があるだけに天才肌の物理学者の著作が多く、含蓄があるが丁寧とさえ言えず、理解し血肉とするのは並大抵でなかった。明晰判明に理解できたとき、自然の簡明さと物理法則の美しさに打たれ、物理学に携わる幸せと誇りを満身に感じた。行き詰まったとき、自分の才能を疑い、自信を喪失した。

卒業が近づく頃、大学紛争がいよいよ激しさを増し、大学が封鎖され、卒業式は行われなかった。私の大学4年間は(続く大学院5年間も)、人間形成の上でも学問の上でも、懊悩と愉悦の間を揺れ動き、充実はしていたが、暗く苦しい修行時代であった。

私の歩いた道は、分野も時代背景も異なり、薬学生が置かれている環境、歩むべき道と隔たりがある。しかし、違った文化や価値観、生き様を知るとは、独り善がりにならないために、むしろ必要なことなのだ。私の過去からひとしずくでも汲み取るものがあれば幸いである。

## 平成22年度の実務実習を終えて

実務実習実施部会責任者 教授（特任） 長船 芳和

### 1. 実習への想い

平成22年度の本学の長期実務実習では、225名の学生の皆さん全員が事故もなく実習を終えることができました。大学で学んできたことを医療現場での程度活用できたか、如何に医療現場での実習が重要か、大学で学べなかったことがどれ程あったか、また、社会人としての立ち居振る舞いなど個々にいろいろと経験し、今後役に立つことを身に付けられたのではないのでしょうか。このことは健康で計22週を過ごせたことにも増して私自身、喜ばしく感じていることです。

### 2. 本学の实習状況

本学では、カリキュラム上、5年次前期に授業科目が設けられていることもあり、Ⅱ期およびⅢ期での実習となっています。昨年度は、Ⅱ期（変則Ⅱ期を含む）においては231施設（薬局147、病院84）、また、Ⅲ期では219施設（薬局78、病院141）での実習実施となりました（これら施設はすべて近畿2府4県におさまっています）。なお、実習先の施設については、病院・薬局近畿地区調整機構での調整会議にて、近畿地区の薬系大学・薬学部の合議で決められるため、学生の希望を聞くことはありません。

### 3. 実習への取組み

事前に行った実務実習ガイダンスでは、教員から諸注意を伝達したのですが、やはり十分浸透せず、教員の施設訪問時に指導薬剤師から色々と苦情めいたことを聞かされました。学生の皆さんは毎日、長期にわたって指導を受けるのですから人間関係が良くないと気持ちよく過ごせません。この時期、通常、同年代の学生は既に大学を卒業し実社会で働いています。しっかりと社会に出る前の勉強もして欲しいと願っています。

実際の臨床の場で分からないことがあれば率直に聞く、また、その時の態度や表情、声のトーンなどに注意するようにしたいものです。指導薬剤師は、多忙でもしっかりと観察していると考えて間違いあ

りません。このように留意することで、積極性があり良識も備えた学生と見られるでしょうし、態度の一部分だけ見て評価されることもなく、誤解もされないでしょう。指導薬剤師の中には、学生からの質問で、初めてこういったことが分かりづらいのかと気づき、教え方を考えねばとの反省の念を教員の訪問時に話された方もおられました。臨床現場での実習が学生にとって大切であることを念頭において、指導に臨んでくれた薬剤師も多いのです。学生も指導薬剤師もお互い悩んでいるのかもしれない。

人は誰でもうまくコミュニケーションを取るには少し時間がかかるものです。その近道は先に述べたように、話す態度も明るく、返事もすかさずするといった、ごく当り前のことが常にできることです。知らない場所で、知らない人とすぐに打ち解けることは難しいですが、態度以外に教えてもらおう気持ちも忘れてはなりません。気持ちは態度になって現れます。友達は気の合う人同士の集まりですが、社会はそうではありません。そのような環境の中に実習があります。誤解をされない話し方、これも実習中にきつと体験するでしょう。

### 4. 教員の訪問

実習が問題なく遂行されるよう教員の施設訪問を実施しました。都合4回はそれぞれ決められた目的があるにも拘わらず、学生の悩み、抱えている問題を早期に把握できなかった点があり大いに反省するところです。また、学生の皆さんは訪問の主旨を理解してください。時間的、場所的な問題がありますが学生とゆっくり話ができるよう取り組む必要性を感じています。

実習を終えた学生が廊下で明るく会釈してくれるときは、私にとっては最も心地よいときであります。平成23年度は長期実務実習の第2年目です。昨年度の反省を踏まえ、学生、教員そして指導薬剤師、共々にとって、より良い実習にしたいものです。

## 【実務実習を終えて—先輩からのメッセージ】

私がこれから実習へ行くみなさんへ伝えたいことは「何事にも目標を持って積極的に取り組むこと」です。実習で「教えて頂く」立場の私たち。しかし教えてもらうことが当たり前ではなく、「見て学ぶ」「見て技術を盗む」、「自分が主体となって実習に参加する」ということを心がけて実習に取り組んで欲しいと思います。また、実習するに従い、大学で学んだ知識が基礎となり服薬指導や調剤業務があることを実感しました。そこで、私は実習中にできるだけ実務に関わる本や参考書を読み、実習内容をより充実させることを目的として実習に取り組みました。初めてのことが多く戸惑うことも多いかもしれませんが、まだまだ学生、失敗してもいい。知らないことは恥ずかしいことではなくしっかり聞いて自分のものにして将来生かすことができればいい。実習を通して私は大学の授業が基盤となり実習をその上に積み重ねることによって薬剤師の卵として成長できたと実感できました。これから実習に出られる皆さん、どうぞ頑張ってください。

(6年次生 田中 理恵)

病院実習では、調剤の基礎を徹底的に叩き込まれました。患者さん第一という視点から、とても細かい所まで気を配らなければなりません。しかし、常に気を張っている状態では身が持たないので、メリハリをつけることの大切さも教わりました。また病棟では、実際に種々の疾患の患者さんの服薬指導を体験し、更に私一人で患者さんを担当させてもらい、長期にわたって服薬指導や患者さんの状態の確認などをしました。お薬の知識だけでなく、患者さんと接する上で重要なことも学ぶことができました。実務実習では薬剤師として、医療人として、社会人として、人として大切なこと、守るべきことも学ぶことができます。そういった意味でもぜひ積極的に実習に取り組んでみてください。

(6年次生 三原 愛)

私にとって病院・薬局実務実習はとても有意義なものでした。11週間という今までより長期間の実習で、同じ患者さんと複数回接することができるようになりました。実習開始当初は、処方されている薬ばかりを考えてしまいがちでしたが、患者さんと何度もお話することで、患者さんの訴えや日々の体調の変化にも目を向けられるようになりました。また患者さんから「前よりも良くなった」などの声を頂くことで、私自身より意欲的に実習に取り組むことができるようになりました。病院・薬局実務実習は普通の勉強だけでは学べないことを学ぶ絶好の機会だと思うので、これから実習に行かれる皆さんは実習に積極的に取り組んで欲しいと思います。

(6年次生 向井 裕亮)

大きな期待と小さな不安、様々な想いを胸に実習に臨みましたが、いざ実習が始まると毎日が充実し、あっという間に期間が過ぎてしまいました。実習中には嬉しいこともある反面、落ち込むことも多々ありました。自信を無くすこともありました。しかし、そこは医療現場であり、医療者が「全力で医療」をされていました。医療現場とはかくもシビアな世界であり、落ち込んでばかりはいられない、すべきことをしなければならぬと痛感しました。5年次生の方々には、これまで学んできたことを現場でどう生かせるのかを、自分の力で日々考え、積極性と誠実さを心に、「医療現場」という緊張感を感じつつ「全力で」実習に臨んでいただけたらと思います。

(6年次生 森川 祥彦)



CBT実施部会責任者 井上 晴嗣

平成23年1月19日（水）～21日（金）の3日間、本学のD棟コンピューター演習室において平成22年度のCBT本試験が行われました。幸い欠席者もなく、対象となる薬学科4年次生270名が受験し、全員合格することができました。4年次生にとっては、直前まで後期定期試験が行われるという過密なスケジュールでしたが、何とか頑張ってくれて結果的には良かったと思います。平成23年度のCBT本試験は受験生の声も参考にして、平成23年12月14日（水）～16日（金）に行う予定になっています。

CBTでは、薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠して出題された五者択一問題310問がゾーン1～3の3ゾーン（各ゾーン2時間ずつ）に分けられ、受験者はパソコンを用いて解答していきます。186問以上の正解（60%以上の正答率）で合格となり、OSCEの合格と併せて、薬学共用試験の合格となります。なお、平成22年度から薬学共用試験合格者には薬学共用試験センターから「薬学共用試験基準点到達証明書」が発行されるそうです。薬学共用試験の合格をもって、学生の基礎的知識や技能・態度が基準に達していることが保証され、5年次に「病院・薬局実務実習」を履修することが可能となります。

CBTが始まってまだ2年目ですが、本学ではこれまで、本試験で全員が合格し、再試験は一度も行われたことがありません。このことは本学の教育レベルが薬学教育に必要とされるレベルを十分に上回っていることを示し、他大学に対して自慢できることかもしれません。これからCBTを受験する4年次以下の学生諸君には、本学でのCBT不合格者第一号とならないよう頑張ってくださいと思います。なお、これからCBTを受験する学生諸君に対して、平成22年度のCBT受験者からコメント・アドバイスをいただきました。参考にできれば幸いです。

## CBT受験者のコメント・アドバイス

- 問題の数を多くこなし、問題慣れした方がいいと思います（M）。
- テキスト（Let's）、模試、補講のプリントを何回も復習して定着させました。問題数をたくさんこなして、間違えたところのやり直しや理解をするのが大事だと思います（堀尾 綾香）。
- 範囲が広いので、苦手な科目・分野の底上げに役立ちました。分量が多いからと焦らずに、基本的なレベルから確実に勉強し始めれば良いと思います（伊狩 光）。
- 私は先輩からの忠告があったにもかかわらず、やり始めたのが遅かったので、肉体的にも精神的にもきつかったです。先生方の「早くからやり始めろ」という言葉は嘘ではありません。本当に早めからやり始めてください！CBTの問題は一人一人違うし、範囲もかなり幅広いので、まずは問題集（私はコアカリを使ってました）で確実にとれる問題である基本的な知識を確実に頭に詰め込んでください（匿名希望）。
- 模擬試験を一つ一つ大事に受験した方がいい。前々から少しずつ勉強した方がいい（金 貴哲）。
- 直前まであきらめないで毎日少しずつ勉強すること。特に有機化学は大事だと思います。基本的なことを何回も繰り返し行うこと。いろんなテキストに手をつけなくて、一冊に絞って勉強した方がいいと思いました（A.K.）。
- CBTは広く浅い問題が多いので、苦手な分野もきちんと勉強しておいた方がいいと思います（M.A.）。
- 私は、勉強しだしたのが遅かったので、かなり苦労しました。夏ごろからしっかり勉強していけば、絶対に余裕をもって合格できると思うので、早めに始める方がいいと思います。特にZone 1は理解が必要なので先に始めると良いと思います。Zone 2も暗記がかなり多いので根気が必要です（H.T.）。
- Let's CBTの教科書は買った方がいいですよ！ゾーン1とゾーン2はしっかり勉強した方がいいですよ！ゾーン1は問題の当たり外れが大きい気がします！（Y.K.）。



OSCE実施部会責任者 恩田 光子

平成22年度共用試験OSCE（Objective Structured Clinical Examination）の実施に際しましては、多大なるご協力を賜り心より御礼申し上げます。

表1には試験（本試験）実施の概要についてまとめました。学生は、5つの領域からの合計6つの課題（表1最下欄参照）を受験しました（各課題の試験実施時間は5分で移動時間等を含めると9分）。なお、試験はこれら各課題について、同時に8名の学生に対して8つの場所（8レーン）で行われました（全6課題の48レーンで合計48名の学生が同時に受験）。学生の試技は、各レーンにつき2名の評価者が担当し、定められた評価表にもとづき評価（細目評価と概略評価）を行いました（同時に96名の評価者が評価）。また、6課題のうち、「病棟での初回面談」および「薬局での薬剤交付」については、模擬患者（SP）が必要であり、本学SP会、神戸SP研究会、本学教職員の方々にご協力いただきました。

当日ご来校されたモニターからは、1フロアでOSCEを完結している点を評価いただくとともにいくつかの改善点をご提示いただきましたが、試験は、概ね問題なく予定通りに終了いたしました。今年度は引き続き1フロアでの実施を前提に、指摘点の是正に努めてまいりたいと考えております。

OSCEの結果については表2に示しますが、受験生270名全員が本試験で合格となりました。

今年度はさらに受験生の増加が見込まれております。

どうぞよろしくご協力賜りますようお願い申し上げます。

表1 平成22年度OSCE本試験実施概要

実施日	平成22年12月25日（土）		
実施時間	8：00～18：00 （試験 10：00～12：10、13：00～17：40）		
試験場所	D棟2階		
受験学生	4年次生 270名		
評価者・ ステーション責任者	学内（大阪薬科大学）		44名
	学外	大学	52名
		病院	8名
	薬局	8名	
模擬患者（SP）	学内（大阪薬科大学）		24名
	学外	大薬SP会	26名
		SP研究会	3名
スタッフ	21名*		
試験領域（課題**）	患者・来局者対応（病棟での初回面談）、薬剤の調製（散剤および水剤）、調剤鑑査（調剤薬鑑査）、無菌操作の実践（注射剤混合）、情報の提供（薬局での薬剤交付）		

\*他に学生TA 65名 \*\*内容は薬学共用試験センターから指定される

表2 平成22年度OSCE合否結果

	実施日	受験者数	合格者数	合格基準
本試験	平成22年 12月25日（土）	270名	270名	細目評価70%以上 概略評価5以上

## 【OSCE体験学生からのコメント】

- ◎今まで自分の中に抱いていた薬局・病院のイメージに照らし合わせると、OSCEで実際に病棟での初回面談や薬局での患者対応などを行ってみて、話すべき内容や質問が思った以上に多いことに驚きました。OSCEを受験したおかげで、病院実習や薬局実習に臨みやすくなった気がします。(5年次生 西田 桂大)
- ◎今までのテスト勉強とは違い、現場(薬局・病院)での対応を練習することができたので、OSCEを通して普通の講義とは異なった価値ある経験ができたことが良かった点だと思います。一方、OSCEは評価を受けるための試験であり、試技を行うのに時間的な制約があり評価ポイントも決まっているので、合格を目指す受験生としては、どうしてもマニュアル的、パターン的な対応になりがちで、実際の臨床現場とのギャップはないかとも感じました。(5年次生 加藤 優生)
- ◎今までは暗記などが多かったのですが、OSCEは薬局や病院などでの対応を実際に行うので、とても緊張感があり勉強になりました。4年次の前・後期の事前学習があるので、OSCE本番は落ちついて取り組むことができました。(5年次生 田村 啓)
- ◎「臨床導入実習」を経験して、薬剤師の仕事内容や手技などを学習しました。多くの先生方が熱心に指導してくださったので、私のモチベーションも上がり、その結果OSCEの合格につながったのだと思います。本番の実習でも、先生に教わったことを生かして積極的に行動したいと思います。(5年次生 中山 雄介)
- ◎今まで薬局や病院での薬剤師の仕事のイメージがぼんやりとしたものだったので、自分が働いている姿が想像できなかったのですが、仕事の流れをシミュレーションしたりディスカッションしたりすることで、やりがいを見出すことができました。この経験を活かして、病院や薬局での実習に臨みたいと思います。(5年次生 田方 裕梨)
- ◎「臨床導入実習」や「薬学総合演習2」で配付された資料や先生方の指導により、試験当日は少し緊張しましたが、落ち着いて試験に臨めました。また、OSCEを意識してこれら事前学習を行ったことにより、結果的に、コミュニケーション能力や薬剤師技能を身に付けることができました。(5年次生 金岡 世晃)

## 第58回公開教育講座

## 第58回大阪薬科大学公開教育講座

## 『くすりの作用と副作用』

日 時	平成23年7月16日(土) 14時～17時35分
会 場	梅田スカイビルタワーウエスト36階 会議室L・R
演題・講師	14:10～15:40「アルツハイマー型認知症の薬物療法における薬剤師の役割」 名古屋大学名誉教授 名城大学薬学部 教授 鍋島 俊隆 先生
	15:55～17:25「アルツハイマー病の新しい診断法と治療薬」 大阪大学大学院医学系研究科 精神医学教室 教授 武田 雅俊 先生
受講受付	当日受付のみとなります。事前の申し込みは必要ありません。
受講料	3,000円(本学卒業生2,000円)

主催：大阪薬科大学

Osaka University of Pharmaceutical Sciences

&lt;大阪薬科大学公開教育講座委員会&gt;

共 催 (財)日本薬剤師研修センター／(社)日本薬学会近畿支部  
後 援 (社)大阪府薬剤師会／NPO法人医薬品適正使用推進機構  
大阪薬科大学同窓会

市民講座委員長 天野 富美夫

大阪薬科大学市民講座は、市民の皆様へ医薬品や健康についての理解をより一層深めていただきたいとの趣旨で、本学の特色を活かした講演活動を活発に行ってまいりました。お蔭様をもちまして、本学周辺を中心に、地域住民の方々の年間行事として定着し、これまでに31回を開催することができました。これもひとえに多くの皆様方のご支援の賜と、関係者一同、心より感謝いたしております。

本年度は、第31回市民講座を3大学（関西大学・大阪医科大学・本学）連携事業の一環として、下記の内容で開催いたしました。これら3大学の特色に溢れた講演によって大変盛況な市民講座となり、参加者数は前年から大きく増加して363名となりました。また、第32回市民講座については、現在、企画検討中ですが、本学独自の市民講座として開催を予定しております。

地元の市民の方々はもちろん、本学教職員や学生、ならびにそのご家族の皆様方の本市民講座へのご参加を期待しております。

平成23年度市民講座（敬称略）

第31回（3大学連携事業） 5月21日（土）13：00～16：30（開催済）

『快適で健やかな老後のために』

1. 高齢化社会と食の関係

～今まで何を食べて、これから何を食べていくべきか～

関西大学 化学生命工学部 生命・生物工学科 教授 福永 健治

2. 高齢者に多い神経の病気

～知っておきましょう病気と薬～

大阪薬科大学 薬品作用解析学研究室 教授 大野 行弘

3. 神経内科の立場から

大阪医科大学 内科学Ⅰ教室 准教授（神経内科 科長）木村 文治

4. 3大学によるパネルディスカッション



第32回 10月15日（土）13：00～16：30（予定）



臨床実践薬学教育研究室  
教授（特任） 長谷川 健次

このたび、平成23年4月から臨床実践薬学教育研究室に教授（特任）として着任しました。昭和49年に大阪薬科大学を卒業し、当時の国立大阪病院に採用され、その後9つの国立病院と厚生省（当時）に勤務しました。その間、調剤、製剤、医薬品管理はもちろんのこと、各施設では医薬分業と薬剤管理指導料にかかる施設の届け出を行いました。厚生省では医薬品の副作用対策、再審査・再評価、毒劇薬等の指定、日本薬局方等の業務にもかかわりました。また、薬学生の実務実習指導や新採用薬剤師の教育研修に携わりました。

私は実務家教員として、学生に対して医療の現場で期待される薬剤師を養成できるように、事前実習では、まずは「挨拶」と「調剤に関する基本的なこと」から指導していきたいと考えています。6年次生にとっては就職という大事な時期を迎えています。病院への就職に関して少しでも情報発信できれば良いと考えています。微力ではございますが、育てていただいた母校への恩返しのもついでに努力する所存ですのでよろしくお願いいたします。



言語文化学グループ  
准教授 スミス 朋子

平成23年4月1日付で大阪薬科大学に着任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。現在の専門は英語教育・言語学で文系ですが、大学での専攻は食物学で、白衣を着て実験をしていました。大学卒業後、あるきっかけで語学を教えることの楽しさに目覚め、方向転換して語学教師になりました。数年間、語学学校で英語や日本語を教えていましたが、その後、さらに専門性を深めたいと思い、アメリカに留学して言語学を専攻しました。初めは、修士課程だけで帰国するつもりで留学しましたが、研究が面白くなり、最終的には博士号も取得しました。博士課程で学んだ大学院は、大規模で留学生数も多い大学でした。そこで、アメリカ人だけではなく、世界の様々な国から来た留学生と出会い、友情を深めることができたのは、一生の宝です。大学、大学院に在籍している間に、もしチャンスがあれば、短期間でもいいので、ぜひ外国を訪れてみてください。きっと新しい発見があるはずですよ。

現職に就くまで、9年間、他大学で留学生に日本語を、日本人学生に英語を教えていました。仕事以外にも、箕面にあるボランティアグループのメンバーとして、外国人が保健・医療機関を利用する際の援助を行ったりしています。留学で体験したこと、教師・ボランティアとして学んだことなどを生かして、英語教育や国際理解に関する支援ができればと思っています。学生の皆さん、何か分からないこと、知りたいことなどがあれば、遠慮せずに研究室を訪ねてください。お待ちしております。



臨床化学研究室  
助手 浅野 麻実子

本年4月1日に助手として着任しました浅野麻実子と申します。2004年に本学を卒業し、その後は九州大学大学院にて修士課程を、大阪大学大学院にて博士課程を修了し、国際医療福祉大学薬学部の助教を経て、本学の教員となりました。薬学部が6年制となり、より高度な専門知識や技能を持った薬剤師の育成が求められています。学生の皆さんが患者さんに心から信頼してもらえる臨床薬剤師になれるよう、尽力していきたいと思っています。



分子構造化学研究室  
助手 小川 洋子

今年度より、分子構造化学研究室・助手に就任致しました小川洋子です。担当科目は「基礎薬学実習」です。私は学部時代、工学部で合成高分子の分子設計に関する卒業研究に取り組み、大学院では蛋白質の構造形成に関する研究に従事していました。薬学部への所属は初めてで、学部のカラーや文化の違い等を実感しますが、学べる事が沢山あるな、と思う毎日です。今後も日々、頑張っていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。



医薬品化学研究室  
助手 菊地 崇

この度、平成23年4月1日付で医薬品化学研究室（田中麗子 教授、山田剛司 准教授）の助手として着任いたしました。

私は、日本大学大学院理工学研究科で、「天然イソプレノイドおよびそれらの誘導体に関する研究」を行ってきまして、平成23年3月に学位を取得いたしました。

大阪薬科大学の教育および研究に貢献するために、努力をしていきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。



環境分子生理学研究室  
助手 孝田 哲也

本年4月より助手として着任いたしました孝田哲也と申します。B棟2Fの環境分子生理学研究室（責任者：藤本陽子教授）に所属しております。

現在、本研究室に在籍する5、6年次生の特別演習・実習の補助、大学院生の特別研究の補助とともに研究活動を行っています。

大学生活や就職活動のことなど、気軽に声をかけて頂ければ、一緒に考えていきたいと思っております。研究室にも遠慮なく訪ねてきてください。宜しくお願いいたします。



薬物治療学研究室  
助手 田中 早織

この度平成23年4月1日付で薬物治療学研究室に助手として着任致しました田中早織と申します。

私は本学修士課程修了後、株式会社新日本科学に勤務しておりました。前職では薬物動態試験と機器分析に従事し、関連する技術と知識の習得に取り組んでおりました。また幸いにも、その過程で新たな知見を見出すなど、貴重な経験をすることができました。

これらの経験を活かし、微力ながら本学の教育と研究に貢献したいと考えております。



生体機能解析学研究室  
助手 田中 智

この度、平成23年4月1日付で生体機能解析学研究室（高岡昌徳教授）の助手として着任しました田中智です。母校である大阪薬科大学で仕事ができることに喜びを感じるとともに責任を感じております。これまで諸先輩方が築き上げてこられた歴史ある大阪薬科大学の発展に少しでも貢献できるように、微力ながら努力していこうと思っておりますので、皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。



臨床実践薬学研究室  
助手 田中 有香

平成23年4月1日付で臨床実践薬学研究室内の助手として着任致しました田中有香（たなかゆか）と申します。私は、平成20年度の本学卒業生です。実務実習の事前学習の一環である4年次の「臨床導入実習」「薬学総合演習2」を主に担当させていただきます。若輩者ではございますが、6年制薬学教育がより一層充実したものとなるよう尽力したいと考えております。皆さま、ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



病態分子薬理学研究室  
助手 田中 亮輔

この度、平成23年4月1日付で病態分子薬理学研究室（松村靖夫教授・大喜多守講師）の助手として就任いたしました。5・6年次の「特別実習」での研究指導及び3年次の「薬理学実習」を担当いたします。私は、平成23年3月に本学大学院修士課程を修了したばかりで、未熟ではございますが、充実した教育・研究環境を学生に提供できるよう努力する所存であります。皆様方のご指導、ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。



有機薬化学研究室  
助手 米山 弘樹

この4月より有機薬化学研究室（春沢・宇佐美特研）の助手になりました、米山弘樹です。大阪薬科大学大学院修士課程を修了した、OBです。卒業後は有機・医薬品系メーカーに就職し、その後、友人の実家の調剤薬局で薬剤師として働いていました。縁があり、母校へと戻ってまいりました。今、3年次生の「有機化学実習」を担当しています。普段は6階の一番奥の研究室にいますので、いつでも遊びに来てください。よろしくお願いします。

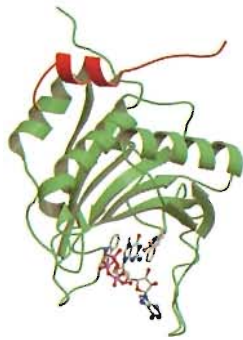
薬品物理化学研究室

薬品物理化学研究室は、石田寿昌教授、友尾幸司准教授、尹 康子講師の3名の教員のもとで、大学院生3名（うち博士課程1名、修士課程2名）と、薬学科6年次生15名、5年次生15名が所属し、日々研究に励んでおります。

当研究室では、「創薬をめざした生体分子の構造機能解析」という大きなテーマの下に、生命維持に重要な働きを有する生体分子や、様々な疾病の発症に関係する物質の構造を原子レベルで決定し、その機能を解析するとともに、それら疾病の原因解明と治療薬の開発を目指しています。具体的な研究内容を以下に示します。

(1) 新規抗がん剤の開発を目指したタンパク質合成開始因子4Eの機能制御機構の解明

体内で行われている蛋白質合成反応の制御機構を解明するとともに、ガン細胞に見られる異常な蛋白質合成の亢進を抑制するような抗がん作用を有する化合物の開発を目的としています。



(2) アルツハイマー型認知症関連タンパク質の異常自己重合機構の解明と認知症治療薬の開発

アルツハイマー型認知症発症患者の脳内に確認される病理学的所見の一つには、タウという蛋白質が異常自己重合を起こした凝集体が確認されます。本来、神経線維の伸長に重要な役割をもつタウ蛋白質が異常にリン酸化されると自己重合を起こしますが、この異常自己重合メカニズムを解明するとともに、重合阻害物質を探索して認知症治療薬の開発を目指します。

(3) 新規抗菌薬開発を目指した細菌の糖取り込み機構の解明  
好熱性放線菌の栄養素の一つである糖の細胞内への取り込みには、幾つかの蛋白質（BxlA、BxlE、BxlF、BxlG）から構成される糖輸送系が存在します。これら蛋白質の立体構造を明らかにすることにより糖輸送機構を解明し、新たな作用機序を有する抗菌薬となり得る栄養素輸送抑制物質の開発を目指します。



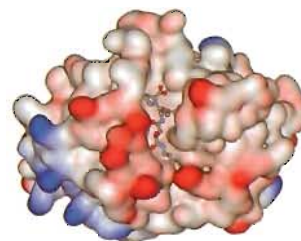
(4) ユビキチン-プロテアソーム蛋白質分解システムの機能解析

蛋白質Parkinは、ユビキチン-プロテアソーム蛋白質分解系において重要な働きを有している一方で、Parkin分子のN末端領域に存在するユビキチン様ドメイン（Uld）に変異が生じることで、若年性パーキンソン病を引き起こすことが知られています。Parkin-Uldおよびその変異体の構造解析を行い、パーキンソン病発症機構を解明することを目的としています。

上記の各テーマについて、研究室所属学生一人一人が個別のテーマを持ち、日夜困難な研究課題に取り組んでいます。6年次生は国家試験勉強に、5年次生は実務実習にと、研究に専念する時間作りは大変ですが、答えのない研究に取り組むという研究室での経験は、短いながらもこの時しかできないとても貴重なものです。テーマは一人一人異なりますが、みんなで力を合わせて一步一步進んでいく。これが薬品物理化学研究室のmottoです。

最後に所属学生の声を挙げます。

「私が出した結果が自分の研究を先に進めることができる。その一歩になりたい」（Wさん：5年次生）、「蛋白質の新しい精製方法を見つけれただけでも凄いです」（F君：5年次生）、「簡単に結果が出るのは研究ではない。そうであるからこそ、結果が出た時の喜びは言葉にできない。」（Kさん：6年次生）、「結果が出なければ意味がない。どんなことにも取り組んで、何か少しでも変化させることができれば。」（Dさん：6年次生）、「研究室の先輩が親身になって教えてくれる。自分のテーマについてもっと深く探っていきたい。」（Yさん：5年次生）、「今まで誰も出したことのない結果を出したい。」（A君：6年次生）、「綺麗な結晶の姿は、何度見ても見とれてしまいます。」（Iさん：6年次生）、「構造解析は機能解析の根本。構造が決まれば全てが解る。成功した時の喜びはハンパじゃない。」（U君：M1）





## 医薬品化学研究室

医薬品化学研究室は、見晴らしのよいB棟の最上階に位置し、構成員は田中麗子（教授）、山田剛司（准教授）及び菊地 崇（助手）の教員3名並びに薬科学科大学院修士課程1名、学部学生32名の大所帯で、限られた時間及びスペースを最大限に活用して研究に勤しんでいます。

研究テーマは「天然物化学」であり、陸上植物の成分及び海洋生物由来菌類の代謝物の2本柱で、具体的には以下のようなテーマを展開しています。

### 1. ブラジル産植物アンデローバのリモノイド

ブラジル産植物アンデローバの花油から多くの新規リモノイドを単離し、絶対構造を決定しました。抗マラリア活性についても調べています。今年度は心材について研究しています。

### 2. キク科及びウリ科野菜の化学成分

今年はウリ科のカボチャやズッキーニの成分を調べています。21世紀の健康維持の、さまざまな病気の癒しの素材は、医食同源の野菜が主役と信じて有効成分を得るべく研究を進めています。

### 3. トリテルペンと芳香族化合物とのHybridsに関する研究

松科トウヒ属植物エゾマツの主成分であるserratane型トリテルペンPJ-1及びPJ-2とフェノール性物質とのconjugatesを合成し抗HIVや抗癌試験を行っています。

### 4. 海洋生物由来菌類の代謝産物に関する研究

海水魚ボラ由来真菌の産生する代謝物から新規細胞毒性物質を探索し数種の新規物質の絶対構造を明らかにしてきました。さらに精査して多くの類縁体を得ることにより構造活性相関を解明しています。また、化学変換により新たな機能性リード化合物の開発も行っていく予定です。

### 5. 新しい細胞毒性物質産生菌の探索

2007年大阪府泉南郡岬町沿岸で採取した海洋生物から分離した菌類のうち細胞毒性物質産生菌として8種類の真菌を見出しており、現在、これらの中から有用な菌を選別するためにそれぞれ大量培養し、それらの代謝物について細胞増殖阻害活性の有無を指標に分離・精製を行っています。また、菌の分離対象である海洋生物を採集するために和歌山県や淡路島の海に行く予定です。

医薬品化学研究室に配属される学生は基本的に1人1テーマで実験・研究を行います。与えられたテーマを受け身でこなすのではなく、自分自身のもので発展させていく中で喜びを実感してほしいと思います。将来ほとんどの学生は薬剤師への道を歩んでいくと思います。今後このような基礎研究をする機会はないでしょう。医薬品化学研究室では、特別実習での日々が充実し、そこで培った経験が社会人になって活かせることができる能動的な学習や研究の進め方を学べるような環境を目指しています。



#### <学生の声>

どこの研究室でお世話になろうかと迷っていた時、田中麗子先生の「serratane型トリテルペンの医薬への応用」という論文を読んで、興味を持ちました。そして、日々の実験の中で研究の面白さと大切さを深く感じています。研究の楽しさの表現は難しいのですが、手つかずの自然に足を踏み入れることだと思います。そんなわくわく感を私は感じています。

幼い頃、登山で珍しい植物を見つけました。図鑑でしか見ていない幻の野草が人目を避けて咲いているのを見て感動しました。あの時の感覚がここにはあります。今、私は海の生物、海綿に寄生する細菌の内外にある化合物を探しています。これを抽出し、癌細胞に対する生理活性を調べています。実験は少しのミスも許さないほど慎重に厳重に行っており、緊張の毎日です。しかし肉眼で見ても分からないものを少しずつ分析していくうちに、自然が織り成す構造が解明されていきます。自然界の未知な構造が最後は分子式で表される簡単な物質になっていくことの神秘さに感動しています。また、この抽出された物質に癌を克服する生理活性があったら、たくさんの人の命を救えるかもしれない。私の力はささいですが、少しでも薬学の発展、そして人の健康の役に立てるかもしれない。そう考えて、研究の大切さを痛感している今日この頃です。ややもすれば、丸暗記であった今までの勉強を経て、これぞ薬学の実習であると、実験の面白さ、醍醐味を教えて頂いています。先生方、先輩方は、進路にもよく相談に乗ってくださり心から感謝しています。医薬品化学研究室は楽しく雰囲気もよく、充実した日々を過ごせる場所です。

## 環境分子生理学研究室

環境分子生理学研究室は、教員として藤本陽子教授、佐久間准教授、孝田哲也助手、学生として大学院生3名（1年、1名；2年、2名）、特別演習・実習生25名（6年、11名；5年、14名）で構成されています。この研究室は「生[命]を衛(まも)る」学問および研究領域である「衛生化学」の精神を受け継ぎ、健康や環境に関する最新的话题を適宜取り込んだ教育的ならびに学際的研究活動を展開しています。

佐久間准教授は持ち前のバイタリティーと実行力を発揮するとともに研究室における良好な雰囲気作りに配慮されています。孝田助手は本年4月に着任しましたが、本学卒業生であり企業で2年間勤めた経験があり、誠実さと責任感を持ち合わせていますので学生とともに研究室をこれから盛り立ててくれると思います。所属学生は皆研究と勉学に対する意欲が旺盛で、礼儀正しく、思いやりがあり、和気あいあいと過ごしています。

研究室は、研究活動を通して学生が成長する場所であると考えています。魅力ある研究室であるためには、最先端の研究課題に取り組み、世界的に評価される研究成果を常に追い求めていくことが大切であると思います。そのためには、教員はもとより所属学生も研究に対して厳しい姿勢で臨まなければなりません。研究目的の背景を理解し、実験研究を行い、その結果を教員、学生を問わず科学的そして客観的に評価することが必要です。それぞれの立場を理解することを前提として、研究に関しては皆が平等の立場で討論できる環境を作り、自ら学ぶ習慣や姿勢を身につけることなくして何事も成し得ることはできないと思います。各種研究セミナー（トピックス紹介、論文抄読会、研究テーマ勉強会、データ発表会、英文輪読会など）はこれらの目的のために、それぞれ週に1回実施しています。

研究テーマのキーワードは「活性酸素」「脂質由来生理活性物質」「環境化学物質」「生活習慣病」などです。これらの関連性を解明することを目的として、*in vitro*および*in*

*situ*（生物試料、培養細胞、生物個体）の実験系で分子生物学的手法を用いて研究を行っています。具体的には、生体内における活性酸素産生調節機構、プロスタグランジンの生合成調節機構、脂質ラフトの生理的ならびに病的役割の解明、肥満により誘発される生活習慣病の発症機構、そして環境化学物質の生体影響の解明などです。教員と所属学生がチームとなって研究テーマに取り組み、社会のニーズに応える新しい研究テーマも現在進行形で進めています。当研究室のテーマの概要は大学ホームページに比較的详细に掲載しています。興味のある人は一度訪ねてみてください。

下欄に所属学生のコメントを記載していますが、これら所属学生から見た研究室の印象からは、この研究室には「和気あいあい」と「ピリピリ、ピリピリ」が共存しており、良い環境と感じています。

異なる学年や学科の学生と一緒に研生活を送ること、長期実務実習や国家試験対策などの学部カリキュラムの狭間で研究活動を行うことには多くの困難がありますが、一方で人間形成においてはとても有意義であると思います。これからも研究の楽しさ、苦しさを実感できる、メリハリのある研究活動を所属学生とともにやっていこうと思っています。



## [所属学生のコメント]

薬学6年制への移行に伴い、本研究室では実験班と文献調査班の二分化という新たな試みがなされています。実験班は実験データを出すことに重きをおき、一方で文献調査班は実験に関するトピックスについて論文検索を行い、毎週検索結果をプレゼンテーションしています。実験班と文献調査班が切磋琢磨し、相互に連携することで、研究室が効率的に機能し、より一層研究レベルの向上が図られていると実感しています。

藤本教授、佐久間准教授、孝田助手からは、研究についてのみならず、学生生活についても、いつも厳しくも温かいご指導を頂き、学生一同大変お世話になっております。また、研究室の学生で学内の球技大会等のイベントにも参加することで、文武共に充実した学生生活を送ることができています。今後とも、研究室の発展に尽力するとともに、残りの学生生活を有意義なものにしたいと思います。

キャリアサポート部長 藤田 芳一

今春、卒業した大学院博士前期(修士)課程修了者(35期生)の進路・就職状況は、昨年同様堅調に推移しています。就職率は98.5%で、特に薬業関連企業(内勤)59.7%、(MR)7.5%、病院13.4%、公務員13.4%等です。公務員への就職がここ数年間学部・大学院とも10%を超えているのが本学の大きな特徴の一つです。

現在、6年制1期生の学部学生6年次生は、薬業関連企業希望者の就職活動が一段落し、病院、公務員希望者が活発に就職活動を行っています。キャリアサポート部委員会・

キャリアサポート課では、学生へのキャリア教育、キャリアサポート(進路・就職支援)の更なる充実を図っています。多様化している学生一人ひとりの興味・能力・価値観に沿った進路・就職先選定のために、キャリアサポート部委員、担当職員(キャリアカウンセラー)がきめ細かな対応に努めています。目まぐるしい社会情勢、環境の変化に迅速かつ的確に対応できるようサポートしています。

表1は、平成23年度キャリアサポートガイダンス実施(予定)の状況です。

表1 平成23年度キャリアサポートガイダンス(予定)

No	開催月	対象	内容
1	4月	新入生保護者(育友会)	就職説明会「就職状況・キャリアサポート部(課)の取り組みについて」
2	4月	1年次生	新入生キャリアガイダンス「夢をかなえるために！」
3	4月	5・6年次生他(全学年)	職種紹介学内企業セミナー(病院・薬局・公務員等80社)
4	4月	5年次生他(全学年)	ブンナビ薬学特別講座
5	4月	全学生	第1回公務員対策講座
6	4月	5年次生	就職活動を始めるにあたって・実習前の諸注意
7	5月	大学院1年次生	個人面談(進路意向確認)
8	5月	6年次生・大学院生	小論文・集団面接トレーニング・ガイダンス・セミナー(薬局・病院・官公庁等)
9	5月	6年次生・大学院生	面接トレーニング・ガイダンス・セミナー(病院・官公庁等)
10	5月	全学生	第2回公務員対策講座
11	5月	5年次生	個人面談(進路意向確認)
12	6月	全学生	第3回公務員対策講座
13	6月	大学院1年次生・5年次生他(全学年)	領域別ガイダンス「卒業生による職種紹介(病院)について」
14	6月	大学院1年次生・5年次生他(全学年)	領域別ガイダンス「卒業生による職種紹介(公務員)大阪府について」
15	6月	大学院1年次生・5年次生他(全学年)	領域別ガイダンス「卒業生による職種紹介(薬業関連企業)CROについて」
16	6月	大学院1年次生・5年次生他(全学年)	領域別ガイダンス「卒業生による職種紹介(製薬企業)MRについて」
17	6月	4・5年次生・大学院生	「インターンシップ」選考(個人面談)
18	7月	4・5年次生・大学院生	「インターンシップ」事前教育
19	7月	5年次生・大学院生	薬業関連企業研究所見学
20	8月	4・5年次生・大学院生	「インターンシップ」実施
21	8月	5年次生・大学院生	模擬グループディスカッション
22	8月	5年次生	実務実習にあたっての接遇(マナー・身だしなみ)について
23	9月	4・5年次生・大学院生	インターンシップ体験報告会～パネルディスカッション～
24	9月	5年次生	キャリアガイダンス・6年次生内定者座談会
25	10月	1年次生～5年次生	薬業関連業界について/就活前に準備しておくこと
26	10月	5年次生	エントリーシート模擬テスト(添削)①
27	11月	5年次生	SPI模擬試験・自己分析をやってみよう
28	11月	4年次生	コミュニケーションについて①
29	11月	3年次生	コミュニケーションについて②
30	11月	4年次生(薬科学科)	個人面談(進路意向確認)
31	11月	5年次生	エントリーシート模擬テスト(添削個別相談)②予約制
32	12月	5年次生他(全学年)	職種紹介学内企業セミナー(研究・臨床開発・MR職等)
33	12月	5年次生他(全学年)	就職内定者を囲む会(MR・研究・開発・病院・公務員・その他内勤職)
34	12月	全学生	第4回公務員対策講座
35	12月	2年次生	マナーについて
36	12月	1年次生	キャリアアップ
37	12月	5年次生・大学院生	模擬グループディスカッション
38	1月	5年次生・大学院生	エントリーシート・履歴書ガイダンス・セミナー①
39	1月	5年次生・大学院生	エントリーシート・履歴書ガイダンス・セミナー②
40	1月	5年次生	就活ガイダンス・個別相談会(土曜日開催)登校日①
41	2月	5年次生・大学院生	グループディスカッション・集団面接トレーニング・ガイダンス・セミナー(土曜日開催)登校日②
42	2月	5年次生・大学院生	面接トレーニング・ガイダンス・セミナー(土曜日開催)
43	3月	5年次生・大学院生	就活ガイダンス・個別相談会(土曜日開催)登校日③
44	3月	5年次生・大学院生	面接トレーニング・ガイダンス・セミナー(土曜日開催)

日本の生命倫理学会を代表する栗屋剛教授、虫明茂教授をはじめとする11名が関西国際空港からエールフランス航空でパリのドゴール空港に飛び立ったのは、東日本大震災後まもなくの3月23日の朝であった。パリまでおよそ11時間半（帰りは12時間半）の旅である。目指すツールズ大学はフランスの南西部に位置し、ドゴール空港からさらに国内便に乗り換えて1時間半近くを要する。ツールズは地方都市ではあるが、3万人の学生を擁する大学都市である。そのせいもあってか、フランス語のテキストにはよくツールズでの学生たちの会話が載っている。実際、ツールズは古い落ち着いた街並みのヨーロッパの大学都市であった。

日仏生命倫理会議 (CONFERENCE FRANCO-JAPONAISE DE BIOETHIQUE) は、「法学・倫理・科学国際学会」に所属する日仏の会員を中心として、会員の関係する日本、フランスおよび他のヨーロッパの各地の大学で毎年開催されてきた。2010年度が第5回目のカンファランスで、テーマは「ロボティクスと医学 (ROBOTICS and MEDICINE)」であった。ALS (筋萎縮性側索硬化症) 患者に対し、脳に直接機械を連結して重度の患者のコミュニケーション能力を高めるブレイン・マシン・インターフェイスの開発研究など、ロボット技術を応用しての医学工学的研究が急速に発達してきていることから、ロボット技術の医学への応用とその倫理的考察が喫緊の課題となってきた。そのような問題意識のもとに今回のカンファランスのテーマは設定された。私は「ロボットの思考と生きた人間身体:脳神経倫理的アプローチ」のテーマで3月25日にツールズ第1大学で15時50分から16時20分までの30分間英語による発表をおこない、10分ほどの質疑応答の時間を持った。

カンファランスは3月24日の17時、学長の開会の挨拶から始まり、4人の代表者の記念講演がおこなわれた。開会式を兼ねた初日の会議は19時に終了し、その後市内で大学主催の歓迎会が催された。開会式の出席者は100人を越える盛況であった。翌日から集中的なカンファランスが26日までおこなわれ、合計23人の発表があった。日本側からはフランスに留学している2人を加え13人の発表であった。この間特筆すべきことは、25日にツールズ市による日仏生命倫理会議を歓迎してのレセプションがなされて、そこでツールズ市長から、日本から参加した私たちに対して、今度の日本の震災の被害者に対する哀悼の意が告げられたことである。フランスでは震災と原発事故への関心は非常に高く、連日のテレビ、新聞、週刊誌の報道からみて、まさにフランス社会の構造を根本から変えると言って良いほどの内容で論じられていた。私たちがフランスに滞在している間に、福島原発事故の「政治的」影響を「直接」受けて (フランス各新聞報道による)、地方統一選挙でサルコジ与党は大敗北を喫し、それを受けてサルコジ大統領が急遽日本に出発することになるという出来事があった。

3月26日に今回訪仏の第一の課題であったカンファランスを終え、翌日私たちは次の課題を果すために、ブルターニュ地方のフランス北西の先端に位置するブレストに向かった。それはブレスト大学で日仏記念交流を兼ねた「法と生命倫理講演会」と大学40周年記念式典に参加するためである。3月28日に正義の象徴である榿の木と日仏友好の記念として桜の木が植樹された。このことがブレスト大学の学長が植樹し私が次の植樹を待っている光景の写真付きでフランスの新聞に報道された。植樹の後、日本の大学から参加した6人が法学部の学生を対象に記念講演と質疑応答をおこなった。私は「日本における生命倫理小史」というテーマで20分程度の短い講演を、記念講演ということもあり、フランス語でおこなった。3月23日に日本を出発して1週間の学会出張はあっという間に過ぎ去った感がありますが、良い思い出となったと思っています。



## 二人のノーベル化学賞受賞者を含む四人の構造生物学の権威が来校、 本学主催の講演会が催されました。

ハイテクリサーチセンター長 小林 祐次

昨年度、京都で開催された国際ペプチド学会への参加のため来日された、「構造生物学から創薬へ」といった私たちのハイテクリサーチセンターの目指している学問領域の権威者でノーベル化学賞を受賞された二人の外国人研究者、Ada Yonath（アダ ヨナット）博士とKrut Wüthrich（クルト ヴュートリッヒ）博士らを本学にお招きし、下記のように、講演とともに研究者との学術交流、学生の啓発を行って頂くといった栄誉を得ることができました。

### ○外国人著名研究者招聘事業

Yonath博士は構造生物学における主要な研究テーマである、mRNA分子に転写された遺伝情報を生体内の主たる機能分子である蛋白質へと具現化する巨大な分子装置であるリボソームの構造の解析に成功しました。その高次構造と機能との関連を明らかにした業績により2009年ノーベル化学賞を受賞されています。本学が受け入れ機関となって、Yonath博士を日本学術振興会の外国人著名研究者招聘事業の一環として昨年12月と今年の3月の二度にわたって日本にお招きしました。本学を拠点に多くの大学、研究機関で講演を行って頂き、同博士の研究を広く社会に発信するとともに、講演会に出席した研究者と精力的に学術討論を行うなど、我が国の学術振興に貢献して頂きました。

### ○ハイテクリサーチセンターの公開シンポジウム

3月4日にはノーベル賞受賞理由となった新規抗生剤の合理的設計を展望したYonath博士の講演を中心に、「創薬研究の最前線」と題してハイテクリサーチセンターの公開シンポジウムを開催しました。広く啓発活動が行えるように、大阪市のビジネス街である大阪大学中之島センターを会場としました。博士の講演のほかに日本における創薬研究の現状を、横山茂之東大教授の「構造生物学と合理的薬剤設計」、千葉健治田辺三菱製薬（株）薬理研所長の「新規多発性硬化症治療薬、FTY720」、杉本八郎京大教授の「アルツハイマー病治療薬」、児玉龍彦東大教授の「抗体医薬品の設計」といった日本における創薬研究の最近の成果についてそれぞれ講演をお願いしました。大学の研究者や学生のほか製薬業界やその他の研究所の研究者が大いに啓発されるセミナーとなり、講演会ののち、会場を移して開かれた懇親会において博士を取り囲んで遅くまで活発な意見交換が行われました。



ノーベル賞受賞者  
ヨナットWeizmann研究所教授



千葉健治田辺三菱製薬（株）薬理研所長



横山茂之東大教授



杉本八郎京大教授



兎玉龍彦東大教授



講演会風景



懇親会で挨拶するヨナット教授

以上、ハイテクリサーチセンターの公開シンポジウム

## ○高校生のためのノーベル賞受賞者による講演と交流会

また、12月12日に高校生がノーベル賞受賞者と交流できる機会を与えるために、主に京阪神地区の高等学校に呼びかけ、「高校生のためのノーベル賞受賞者による講演と交流会」といった同時通訳付きの講演会を本学講堂で催しました。高校生と高校教諭を含む約400名の参加者があり、高校生の活気溢れる4時間に及ぶ交流会となりました。終了後、回収したアンケートでは、博士が将来の研究者に対し、「賞など名声を得るために学ぶのではなく、自分が知りたいことについて強い好奇心を持って学び、研究し続けなさい」と強調されたことに多くの生徒が感銘を受けたようでした。高校の先生方からもこの試みを大いに評価され、感謝の意が伝えられました。



ヨナット教授とパネラーの高校生代表



同時通訳付きの講演会風景

以上、高校生のためのノーベル賞受賞者による講演と交流会

### ○科学者を目指す女子学生のための講演会

更に、Yonath博士の受賞が、最初のキュリー夫人から数えて4人目で40年ぶりの女性による化学賞受賞であることから、博士による講演が女子学生が科学者を目指す動機付けの一助になることを期待して、奈良女子大学の記念講堂において講演会を本学と奈良女が共催して12月11日に講演会を催しました。特に女子学生よりの質問に対し、女性が研究を継続する上で家族の支えが不可欠であるなど、博士の幼少のころからの生活史も交えて女性科学者の心構えを率直に話していただき、学生に深く感銘を与えました。

### ○平成22年度ハイテクリサーチセンター報告会 特別講演会

一方、Wüthrich博士は溶液中での生体高分子の構造を多核多次元核磁気共鳴（NMR）法によって解析する方法を確立し、その応用であるプリオン蛋白質の構造解析などの構造生物学への寄与により2002年ノーベル化学賞を受賞されています。12月3日にはハイテクリサーチセンターが毎年12月に行っている報告会として、博士のほかに蛋白質の高次構造構築原理研究の先駆者であり重鎮であるHarold Scheraga（ハロルド シェラーガ）博士と蛋白質相互作用の熱力学解析から合理的創薬への方法の開拓者であるErnesto Freire（エルネスト フレーア）博士を加えた三人を本学にお招きし、平成22年度公開シンポジウムの特別講演会を本学講堂において催しました。本学の教員、学生のほか、他大学や製薬業界からも多くの研究者が参加されましたが、世界の最先端の情報に、参加した聴衆は、大いに学術的刺激を与えられました。講演前の本学の総合科学系の先生をも交えた昼食会、更に講演後の懇親会は非常に盛況で、斯界の権威者との交流を深める機会を得ることができました。



フレーアJohns Hopkins大教授



ノーベル賞受賞者  
グュートリッヒSwiss工科大教授



シェラーガCornell大教授

以上、平成22年度ハイテクリサーチセンター報告会 特別講演会

教授（特任） 梶本 哲也

本機構の活動は、今年度（平成23年度）で3年目に入り、同時に、文部科学省からの予算配分の最終年度を迎えます。しかし、予算申請時の契約により、国からの予算が配分されなくなっても、平成30年度まで本事業を継続することになっており、現在、次年度以降の計画を立てながら活動を進めているところです。今回は、今年度より開始しました双方向遠隔講義での新設科目「医工薬連環科学」のご紹介を中心に、昨年度秋以降の活動を紹介させていただきます。

これまで、予算申請時に掲げました3つの目標のうち、最も大きな予算配分であった「医工薬教育支援システムの構築と教育環境の整備」に努め、初年度から遠隔講義システムによる双方向講義を実施し、昨年度には前・後期を合せて、10を超える講義を三大学で送受信することができました。今年度は、これらの科目を横断的に解説し、三大学の学生諸氏に医工薬連環科学の全体を把握していただけるように新設科目を開設しました。具体的には、本学の2年次前期の選択科目として「医工薬連環科学」を配当し、大阪医科大学から4コマ、本学から5コマ、そして関西大学から6コマの合計15コマの講義を遠隔双方向テレビシステムで送受信しています。大阪医科大学からの講義では、人の誕生、思春期、壮年期から逝去までの一生の各時期にかかりやすい疾病やその治療に使われる医療技術、看護技術について紹介されました。本学からは、薬学の広い分野の中から「薬のシード発見から製品開発まで」をテーマに、創薬プロセスに直接関与する分野を紹介しました。内容としては、医薬品シードの探索（梶本）、ゲノム創薬：新しい医薬品開発の展開 遺伝子を標的とするテララーメド医薬品の開発について（浦田秀仁 先生）、薬の効き方、効く仕組み：薬理学入門（大野行弘 先生）、および、医薬品の吸収と製剤化技術（1）（2）（掛見正郎 先生）の5回の講義で構成されています。また、関西大学からは、医療に使われるテクノロジーについて、超音波、介護機器、食品加工技術等の分野の先生がわかりやすく解説されています。ただ、残念なことは、月曜日の5時限目の開講ということもあり、本学からは10名ほどの学生しか受講していません。大阪医科大学におきましては、99名の医学生、看護学生が受講しています。次年度も開講予定ですので、できるだけ多くの学生さんに受講して頂きたいと思っています。

また、昨年度の秋以降も、もう一つの目標である「地域社会への還元」に力を入れ、高槻家族講座、市民講座、ワクワク科学実験教室、小学校への出張講義等を実施しています。昨秋の高槻家族講座では、株式会社ニチレイフーズのご協力を得、「おいしさのタイムカプセル、冷凍食品」をテーマに冷凍食品の製造から冷凍食品を美味しく食べる工夫について講演して頂きました。さらに、本企画では初めて、子供体験コーナーを学外で実施し、(株)ニチレイフーズの皆様のご好意により関西工場（高槻市東上牧1-2-5）で子供達に冷凍ピラフ作りを経験してもらいました。市民講座は、本学の市民講座委員会に御世話になり、5月21日に「快適で健やかな老後のために」をテーマに、「高齢化社会と食の関係」（関西大学：福永健治先生）、「高齢者に多い神経の病気」（大阪薬科大学：大野行弘先生）、ならびに、「神経内科の立場から」（大阪医科大学：木村文治先生）のご講演とパネルディスカッションが行われ、360名もの市民の方々にご参加くださり、大盛況で終えることができました。

その他、小学生、中学生を対象とした自由研究コンテストが、昨年11月に関西大学のミューズキャンパスで開催されました。シンポジウム（第4回～第6回）も適時開催され、特に、第6回のシンポジウムは「これからの理科教育を考える」というテーマで開催され、高槻市の教育関係者をお招きして本機構が行ってきた「地域社会への還元（活動）」について紹介されました。その中でも中心的な活動である小学校への出張講義は、関西大学の先生方が講師を務められ、今年度前期には17校で出張講義を実施されます。

冒頭でも述べましたように、今年度は予算配分の最終年度となるため、活動の重心を本教育GP（good practice）の中心とも言うべき「大学での教育課程の構築」に置き、本教育課程を積極的に受講した学生諸氏が医療や医薬品に、そして医療を支えるテクノロジーにも精通した人材として、社会で活躍してもらえるように努力して行きたいと考えています。昨年度同様に学内の皆様のご協力を仰ぎたいと存じます。宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、今年3月11日には、関西大学の関係者とともに東北大学で実施されています「医療工学技術者の創成のための再教育システム（REDEEME）」の見学に行き参りました。当日は、ブタ脳神経の解剖実習を見学させて頂く予定であり、山口隆美先生より簡単なお説明を受け、正に実習見学をさせて頂こうというタイミングで東日本大震災が発生し、被害を体験致しました。私達は3月13日には帰阪できましたが、被災地の状況は依然として復旧の目処すら立っていないように思えます。ニュースなどで被災地の様子が報道されます度に当日のことが思い出され、1日も早い復興を祈るばかりです。心よりお見舞い申し上げます。





事務局長 田部 信重

平成22年度決算

学校法人大阪薬科大学の平成22年度決算については、平成23年5月24日（火）に開催された理事会及び評議員会において承認されましたので、資金収支計算書・消費収支計算書・貸借対照表・財産目録及び監事監査報告書を掲載し、その概要を説明します。

(資金収支計算書)

平成22年度の資金収支は、主な収入源である学生生徒等納付金収入が、予算を3,407万円上回りました。また、主な支出源である人件費支出が、予算を1億8,563万円下回りました。その結果、次年度繰越支払資金は23億2,862万円となりました。

平成23年度予算

学校法人大阪薬科大学の平成23年度予算については、事業計画及び予算編成方針に基づき、予算委員会の審議を経て編成を行いました。平成23年3月22日（火）に開催された理事会及び評議員会において承認されましたので、資金収支予算書・消費収支予算書を掲載し、資金収支科目を中心に、その概要を説明します。

(総括)

平成23年度の収入予算総額（収入の部合計－前年度繰越支払資金）は54億2,461万円、支出予算総額（支出の部合計－次年度繰越支払資金）は50億7,331万円であり、差引き3億5,130万円の収入超過となります。

<収入の部>

(学生生徒等納付金収入)

学部新生は入学定員（300名）として予算編成し、授業料22億6,620万円、入学金1億4,000万円、施設設備費11億2,260万円他を計上しました。

(補助金収入)

私立大学等経常費補助金2億6,270万円、施設整備費補助金5,150万円他を計上しました。

(事業収入)

附属薬局の収入予算4億6,900万円他を計上しました。

<支出の部>

(人件費支出)

教員人件費は11億9,242万円、事務職員人件費は附属薬局分を含め5億1,427万円、退職金は1億4,600万円他を計上しました。

(教育研究経費支出)

5年次生病院・薬局実務実習費、体育館外壁修理工事、教務系システム保守料他、計8億9,654万円を計上しました。

(管理経費支出)

受験生向けホームページ運用費、人事・財務システム保守料、附属薬局費支出他、計5億5,460万円他を計上しました。

(施設関係支出)

建物支出としてC棟講義室音響設備工事他、計4,240万円を計上しました。

(設備関係支出)

教育研究用機器備品支出として、NMRの更新費他、計2億2,833万円を計上しました。

■平成22年度決算

平成22年度 資金収支計算書

平成22年4月1日から  
平成23年3月31日まで

(単位：円)

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	3,068,700,000	3,102,774,000	△ 34,074,000
手数料収入	71,100,000	86,026,320	△ 14,926,320
寄付金収入	20,000,000	28,728,525	△ 8,728,525
補助金収入	318,900,000	298,049,469	20,850,531
国庫補助金収入	314,800,000	295,941,000	18,859,000
高槻市結核対策費補助金収入	100,000	108,469	△ 8,469
学術研究振興資金収入	4,000,000	2,000,000	2,000,000
資産運用収入	40,700,000	55,368,381	△ 14,668,381
資産売却収入	600,000,000	700,001,000	△ 100,001,000
事業収入	501,000,000	502,656,361	△ 1,656,361
雑収入	79,000,000	83,200,274	△ 4,200,274
前受金収入	416,000,000	445,450,000	△ 29,450,000
その他の収入	210,369,000	179,673,809	30,695,191
資金収入調整勘定	△ 580,914,000	△ 634,040,189	53,126,189
前年度繰越支払資金	2,615,601,000	2,731,063,331	
資金収入の部合計	7,360,456,000	7,578,951,281	△ 218,495,281

支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	1,697,835,000	1,512,198,074	185,636,926
教育研究経費支出	882,001,000	788,381,566	93,619,434
管理経費支出	598,276,000	539,394,344	58,881,656
借入金等利息支出	56,800,000	56,788,171	11,829
借入金等返済支出	544,500,000	544,430,000	70,000
施設関係支出	30,550,000	34,862,900	△ 4,312,900
設備関係支出	174,957,000	167,212,232	7,744,768
資産運用支出	600,000,000	1,621,733,356	△ 1,021,733,356
その他の支出	245,876,000	230,449,205	15,426,795
[予備費]	20,000,000		20,000,000
資金支出調整勘定	△ 212,807,000	△ 245,118,647	32,311,647
次年度繰越支払資金	2,722,468,000	2,328,620,080	393,847,920
資金支出の部合計	7,360,456,000	7,578,951,281	△ 218,495,281

平成22年度 消費収支計算書

平成22年4月1日から  
平成23年3月31日まで

(単位：円)

消費収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	3,068,700,000	3,102,774,000	△ 34,074,000
手数料	71,100,000	86,026,320	△ 14,926,320
寄付金	20,000,000	36,633,096	△ 16,633,096
補助金	318,900,000	298,049,469	20,850,531
国庫補助金	314,800,000	295,941,000	18,859,000
高槻市結核対策費補助金	100,000	108,469	△ 8,469
学術研究振興資金	4,000,000	2,000,000	2,000,000
資産運用収入	40,700,000	55,368,381	△ 14,668,381
資産売却差額	0	999	△ 999
事業収入	501,000,000	502,656,361	△ 1,656,361
雑収入	79,000,000	83,200,274	△ 4,200,274
帰属収入合計	4,099,400,000	4,164,708,900	△ 65,308,900
基本金組入額合計	△ 732,000,000	△ 563,968,085	△ 168,031,915
消費収入の部合計	3,367,400,000	3,600,740,815	△ 233,340,815

消費支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	1,661,105,000	1,502,696,714	158,408,286
教育研究経費	1,368,901,000	1,289,773,366	79,127,634
管理経費	662,576,000	597,757,215	64,818,785
借入金等利息	56,800,000	56,788,171	11,829
資産処分差額	2,300,000	47,581,352	△ 45,281,352
[予備費]	20,000,000		20,000,000
消費支出の部合計	3,771,682,000	3,494,596,818	277,085,182

当年度消費支出超過額	404,282,000	0	
当年度消費収入超過額	0	106,143,997	
前年度繰越消費支出超過額	343,196,000	0	
前年度繰越消費収入超過額	0	124,175,417	
翌年度繰越消費支出超過額	747,478,000	0	
翌年度繰越消費収入超過額	0	230,319,414	

貸借対照表

平成23年3月31日

(単位：円)

資産の部			
科目	平成22年度末	平成21年度末	増減
固定資産	20,939,045,681	20,331,406,064	607,639,617
有形固定資産	17,152,131,244	17,519,372,751	△ 367,241,507
土地	8,721,420,350	8,721,420,350	0
建物	5,944,910,943	6,296,172,457	△ 351,261,514
その他の有形固定資産	2,485,799,951	2,501,779,944	△ 15,979,993
その他の固定資産	3,786,914,437	2,812,033,313	974,881,124
流動資産	3,244,412,293	3,717,807,369	△ 473,395,076
現金預金	2,328,620,080	2,731,063,331	△ 402,443,251
その他の流動資産	915,792,213	986,744,038	△ 70,951,825
資産の部合計	24,183,457,974	24,049,213,433	134,244,541

基本金の部			
科目	平成22年度末	平成21年度末	増減
第1号基本金	20,862,085,059	20,298,116,974	563,968,085
第3号基本金	85,000,000	85,000,000	0
第4号基本金	201,000,000	201,000,000	0
基本金の部合計	21,148,085,059	20,584,116,974	563,968,085

消費収支差額の部			
科目	平成22年度末	平成21年度末	増減
翌年度繰越消費収入超過額	230,319,414	124,175,417	106,143,997
消費収支差額の部合計	230,319,414	124,175,417	106,143,997

負債の部			
科目	平成22年度末	平成21年度末	増減
固定負債	1,595,791,289	2,149,722,649	△ 553,931,360
長期借入金	833,290,000	1,377,720,000	△ 544,430,000
その他の固定負債	762,501,289	772,002,649	△ 9,501,360
流動負債	1,209,262,212	1,191,198,393	18,063,819
短期借入金	544,430,000	544,430,000	0
その他の流動負債	664,832,212	646,768,393	18,063,819
負債の部合計	2,805,053,501	3,340,921,042	△ 535,867,541

消費収支差額の部			
科目	平成22年度末	平成21年度末	増減
負債・基本金・消費収支差額の部合計	24,183,457,974	24,049,213,433	134,244,541

財産目録

平成23年3月31日

(単位：円)

I 資産総額	24,183,457,974
内 基本財産	17,242,461,655
運用財産	6,940,996,319
II 負債総額	2,805,053,501
III 正味財産	21,378,404,473

区分	金額
資産額	
1 基本財産	17,242,461,655
土地	59,259.53㎡ 8,721,420,350
建物 (付属設備を含む)	35,734.80㎡ 5,944,910,943
図書	90,298冊 1,339,134,831 1,847本
構築物・機器備品	1,946点 1,144,637,015
その他	92,358,516
2 運用財産	6,940,996,319
現金預金	2,328,620,080
その他	4,612,376,239
資産総額	24,183,457,974

区分	金額
負債額	
1 固定負債	2,140,221,289
長期借入金	1,377,720,000
その他	762,501,289
2 流動負債	664,832,212
負債総額	2,805,053,501
正味財産 (資産総額 - 負債総額)	21,378,404,473

注記 固定負債長期借入金について  
貸借対照表では、平成23年度期中において返済予定のものを、短期借入金としている。

監査報告書

平成23年 5月20日

学校法人 大阪薬科大学

理事長 矢内原千鶴子 殿

学校法人 大阪薬科大学

監事 露口 佳彦

監事 出水 順

私たちは、学校法人大阪薬科大学の監事として、私立学校法第37条第3項並びに寄附行為第33条に基づいて同学校法人の平成22年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）における財産目録及び計算書類（貸借対照表、資金収支計算書、消費収支計算書）を含め、学校法人の業務及び財産に関し監査を行いました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務及び財産に関する不正の行為または法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認めました。

以上

■平成23年度予算

平成23年度 資金収支予算書

平成23年4月1日から  
平成24年3月31日まで

(単位：千円)

収入の部			
科目	平成23年度予算	平成22年度予算	増 減
学生生徒等納付金収入	3,530,300	3,068,700	461,600
手数料収入	72,100	71,100	1,000
寄付金収入	20,000	20,000	0
補助金収入	350,100	318,900	31,200
国庫補助金収入	346,000	314,800	31,200
高槻市結核対策費補助金収入	100	100	0
学術研究振興資金収入	4,000	4,000	0
資産運用収入	52,000	40,700	11,300
資産売却収入	800,000	600,000	200,000
事業収入	475,000	501,000	△ 26,000
雑収入	120,000	79,000	41,000
前受金収入	416,000	416,000	0
その他の収入	242,614	210,369	32,245
資金収入調整勘定	△ 653,500	△ 580,914	△ 72,586
前年度繰越支払資金	2,184,212	2,615,601	△ 431,389
資金収入の部合計	7,608,826	7,360,456	248,370

支出の部			
科目	平成23年度予算	平成22年度予算	増 減
人件費支出	1,874,695	1,697,835	176,860
教育研究経費支出	896,546	882,001	14,545
管理経費支出	554,608	598,276	△ 43,668
借入金等利息支出	37,500	56,800	△ 19,300
借入金等返済支出	544,500	544,500	0
施設関係支出	47,400	30,550	16,850
設備関係支出	272,246	174,957	97,289
資産運用支出	800,000	600,000	200,000
その他の支出	233,270	245,876	△ 12,606
[予備費]	20,000	20,000	0
資金支出調整勘定	△ 207,455	△ 212,807	5,352
次年度繰越支払資金	2,535,516	2,722,468	△ 186,952
資金支出の部合計	7,608,826	7,360,456	248,370

平成23年度 消費収支予算書

平成23年4月1日から  
平成24年3月31日まで

(単位：千円)

消費収入の部			
科目	平成23年度予算	平成22年度予算	増 減
学生生徒等納付金	3,530,300	3,068,700	461,600
手数料	72,100	71,100	1,000
寄付金	20,000	20,000	0
補助金	350,100	318,900	31,200
国庫補助金	346,000	314,800	31,200
高槻市結核対策費補助金	100	100	0
学術研究振興資金	4,000	4,000	0
資産運用収入	52,000	40,700	11,300
資産売却差額	1,500	0	1,500
事業収入	475,000	501,000	△ 26,000
雑収入	120,000	79,000	41,000
帰属収入合計	4,621,000	4,099,400	521,600
基本金組入額合計	△ 739,000	△ 732,000	△ 7,000
消費収入の部合計	3,882,000	3,367,400	514,600

消費支出の部			
科目	平成23年度予算	平成22年度予算	増 減
人件費	1,829,385	1,661,105	168,280
教育研究経費	1,403,846	1,368,901	34,945
管理経費	618,308	662,576	△ 44,268
借入金等利息	37,500	56,800	△ 19,300
資産処分差額	10,500	2,300	8,200
[予備費]	20,000	20,000	0
消費支出の部合計	3,919,539	3,771,682	147,857

当年度消費支出超過額	37,539	404,282	
前年度繰越消費支出超過額	0	343,196	
前年度繰越消費収入超過額	117,004	0	
翌年度繰越消費支出超過額	0	747,478	
翌年度繰越消費収入超過額	79,465	0	

学生相談室相談員 川端 康雄

東北地方太平洋沖地震で犠牲になられた方々に、深い哀悼の意を表します。また被害に遭われた皆さまに衷心よりお見舞い申し上げます。

東北地方で3月11日に発生した地震と津波により、今まで経験したことのない甚大な被害が生じ、現在も避難所生活を強いられている方々が多数おられます。皆さま方のご親戚、ご友人の中にもいらっしゃるかもしれません。心からお見舞い申し上げます。

連日、メディアで報道される被災地の映像を見るだけでも心が痛む方もおられるかと思えます。直接、被災してなくても、想像を絶する被害を報道で見聞きすることでストレス反応が生じることもあります。また、関西では阪神・淡路大震災で被災した方々が多く、当時の恐怖感がよみがえり、フラッシュバック（あたかも震災を再び体験しているように映像が頭の中で突然、かつ鮮明に思い出される）が起こった人も少なくないかと思えます。このような時は、周囲の温かいサポートがトラウマからの回復に必要ですが、熱心に話を聞くあまり、自分自身も情緒的に巻き込まれてしまい、同じような症状を呈してしまう場合も少なくありません。これを「心の二次被害」と呼びます。実は、このような情緒的な巻き込まれは災害時のトラウマ支援に限らず、広く心の問題についても同じようなことが起こることがあります。

友人の悩みを聞いているうちに、自分自身も情緒的に巻き込まれて一緒に悩んでしまったり、親切心で友人の気持ちを相手に代弁したところ、新たな火種となり、自分自身もその当事者の一員となってしまったりするなど、相手のことを親身に思うあまり、自分自身も問題を抱え込んでしまう可能性があります。もちろん私たちはこのような対人上のトラブルを抱え、乗り越えながら色々なことを学んでいくので、そのような経験も長い目で見れば、人生の糧となることは間違いありません。特に学生時代は色々なことを吸収できる期間なので、人とのちょうどよい距離の取り方を学べる機会になるかもしれません。しかし、あまりにも問題が長期化してしまったり、深刻になってしまったりしたときには、自分ひとりで抱え込まないよう、学生相談室の利用を勧めてみるのもよいアドバイスになるかもしれません。

もちろん学生相談は深刻な問題ばかり扱うものではありません。「実習が不安」「講義についていけない」「将来の進路に迷っている」「自分の性格を知りたい」など、どんな

ことでも相談することができます。一人で考えていても息が詰まってしまいますので、ぜひ相談室でお話してください。友人との来室でも大歓迎です。心のモヤモヤを解消する方法を一緒に考えましょう。また「自分に自信がない」「人の目がとても気になる」「極度の不安や恐怖感がある」といった悩みを長い間抱えている方は、定期的に相談室を利用することができます。1回50分程度、何回かお会いして自分の気持ちや行動のクセなどが現実の出来事とどのように関係しているのかを考えていきます。もちろん、相談員の方から来室を無理強いすることはありません。学生のみなさんのためのカウンセリングですから、いつでもやめることができます。

学生相談室では、相談員があなたの気持ちを第一に、時間をかけて話し合い、満足のいく学生生活が送れるようにお手伝いさせていただきます。悩んでいるのはあなただけではありません。小さな悩みでも気軽に相談してみてください。

学生相談室

本学では、学生相談室を設け、週に2回、カウンセラー（専門の臨床心理士）が相談を受け付け、学生が抱える問題や悩みに対処しています。



小田佳子相談員  
(木曜日担当)



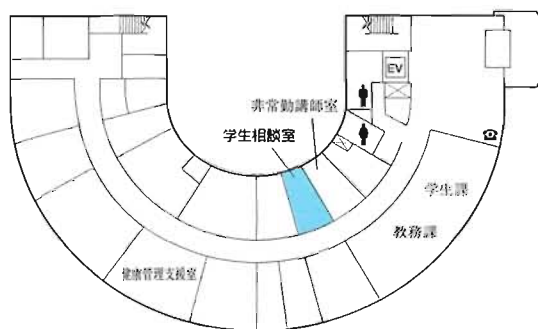
川端康雄相談員  
(火曜日担当)

開室時間：毎週火・木曜日 12:00～16:00

TEL：(072) 690-1077（直通）

E-mail：counsel@gly.oups.ac.jp

《場所》A棟1階



## 教員研究業績 (2010年)

(2010.1.1 ~ 12.31)

## 1. 研究学術論文

著者	標 題	掲 載 誌
宇佐美吉英, 有本正生, 木岡千佐加, 山中昌子, 松田直子, 市川隼人	Synthesis of (3S) -2, 5-diethoxy-3, 6-dihydro-3-isopropyl-6-methylsulfanylpyrazines and stereoselectivity in alkylation of the anions	Heterocycles, 81, 1239~1251 (2010)
市川隼人, 西岡美穂, 有本正生, 宇佐美吉英	Synthesis of 4-Aryl-1 <i>H</i> -pyrazoles by Suzuki-Miyaura cross coupling reaction between 4-bromo-1 <i>H</i> -1-tritylpyrazole and arylboronic acids	Heterocycles, 81, 1509~1516 (2010)
市川隼人, 大船晴彦, 宇佐美吉英	Microwave assisted selective synthesis of 2 <i>H</i> -indazoles via double Sonogashira coupling of 3, 4-diiodopyrazoles and Bergman-Masamune cycloaromatization	Heterocycles, 81, 1651~1659 (2010)
荒木理佐, 春沢信哉	Efficient synthesis of 2'- <i>O</i> -cyanoethylated imidazole <i>C</i> -ribonucleoside phosphoramidite: A practical building block for probing the catalytic mechanism of ribozymes	Heterocycles, 81, 1861~1869 (2010)
春沢信哉, 小島千尋, 藤井健介, 山下悠作, 田中智也, 荒木理佐, 芳村利信, 坂口 実, 宇佐美吉英, 高岡昌徳	Synthesis of two estradiol-imidazol <i>C</i> -ribonucleoside hybrid compounds exhibiting inhibitory effects against type 1 17 $\beta$ -hydroxysteroid dehydrogenase	Heterocycles, 81, 2817~2830 (2010)
宇佐美吉英, 谷口雅彦, 藤嶽美穂代, 他	Antitumor Agents, 282. 2'-( <i>R</i> ) - <i>O</i> -Acetylglauucarubinone, a quassinoid from <i>Odyndyca gabonensis</i> as a potential anti-breast and anti-ovarian cancer agent	J. Nat. Prod., 73, 1553~1558 (2010)
向畑 剛, 越智洋輔, 伊藤裕司, 和田俊一, 浦田秀仁	Facile and efficient approach for the synthesis of <i>N</i> <sup>2</sup> -dimethylaminomethylene-2'- <i>O</i> -methylguanosine	Bioor.Med.Chem.Lett., 20, 129~131 (2010)
和田俊一, 人見哲平, 田中麗子, 他	Anti-tumor-initiating effects of spiro-biflavonoids from <i>Abies sachalinensis</i>	Chem.Biodivers., 7, 2303~2308 (2010)
浦田秀仁, 山口瑛理子, 船井達也, 松村有里子, 和田俊一	Incorporation of thymine nucleotides by DNA polymerases through T-Hg <sup>II</sup> -T base pairing	Angew.Chem.Int.Ed., 49, 6516~6519 (2010)
井上敦子, 谷口雅彦, 芝野真喜雄, 馬場さみ江, 他	Chemical studies on the root of <i>Heracleum candicans</i> Wall. (part3)	J. Nat. Med., 64, 175~181 (2010)
芝野真喜雄, 田畑明德, 谷口雅彦, 馬場さみ江, 他	Determination of flavonoids in licorice using acid hydrolysis and reversed-phase HPLC and evaluation of the chemical quality of cultivated licorice	Planta Med., 76, 729~733 (2010)
芝野真喜雄, 谷口雅彦, 安田正秀, 馬場さみ江, 他	New orally bioavailable 2-aminobenzamide-type histone deacetylase inhibitor possessing a (2-hydroxyethyl) (4-(thiophen-2-yl) benzyl) amino group	Bioorg. Med. Chem., 18, 3925~3933 (2010)
岩永一範, 林真奈美, 濱畑有美, 宮崎 誠, 芝野真喜雄, 谷口雅彦, 馬場さみ江, 掛見正郎	Furanocoumarin derivatives in kampo extract medicines inhibit cytochrome P450 3A4 and P-glycoprotein	Drug Metab. Dispos., 38, 1286~1294 (2010)
芝野真喜雄, 他	甘草の国内生産を目指して(2) - ウラルカンゾウ ( <i>Glycyrrhiza uralensis</i> Fisher) の優良個体の選抜について	生薬学雑誌, 64, 76~82 (2010)
辻井寛子, 山田剛司, 梶本哲也, 田中麗子, 他	Hybrids of 3 $\alpha$ -methoxyserrat-14-en-21 $\beta$ -ol (PJ-1) and 3 $\beta$ -methoxyserrat-14-en-21 $\beta$ -ol (PJ-2) and various anti-oxidants as cancer chemopreventive agents	Eur. J. Med. Chem., 45, 2191~2197 (2010)
酒井邦佳, 田中麗子, 他	Chemopreventive effects of 13 $\alpha$ , 14 $\alpha$ -epoxy-3 $\beta$ -methoxyserratan-21 $\beta$ -ol (PJJ-34), a serratan-type triterpenoid, in a rat multi-organ carcinogenesis bioassay	Cancer Lett., 289, 161~169 (2010)

著 者	標 題	掲 載 誌
室賀康秀, 山田剛司, 沼田 敦, 田中麗子	11- and 4'-Epimers of Chaetomugilin A, novel cytostatic metabolites from marine fish-derived fungus <i>Chaetomium globosum</i>	Helv. Chim. Acta. 93, 542~549 (2010)
山田剛司, 北田 浩, 梶本哲也, 沼田 敦, 田中麗子	The relationship between the CD Cotton effect and the absolute configuration of FD-838 and its seven stereoisomers	J. Org. Chem., 75, 4146~4153 (2010)
半田典子, 山田剛司, 田中麗子	An unusual lanostane-type triterpenoid, spiroinonotsuoxodiol, and other triterpenoids from <i>Inonotus obliquus</i>	Phytochemistry, 71, 1774~1779 (2010)
尹 康子, 石田寿昌, 他	Conformational studies of (±) -11, 12-didehydro-11-deoxycorynoline and (+) -11, 13-didehydro-11-deoxychelidonine, hexahydrobenzo[ <i>c</i> ] phenanthridine-type alkaloid derivatives, by X-ray crystal structure and NMR analyses	Helv. Chim. Acta, 93, 25~32(2010)
西浦千里, 竹内健悟, 箕浦克彦, 友尾幸司, 石田寿昌, 他	Importance of Tyr310 residue in the third repeat of microtubule binding domain for filament formation of tau protein	J. Biochem., 147, 405~414 (2010)
尹 康子, 石田寿昌, 他	<i>Ips</i> -Iodocyclization of ethoxyethyl ethers to alkynes at the <i>ortho</i> -position: An efficient synthesis of functionalized spiro compounds	Synlett, 203~206 (2010)
尹 康子, 石田寿昌, 他	Alchivemycin A, a bioactive polycyclic polyketide with an unprecedented skeleton from <i>Streptomyces</i> sp.	Org. Lett., 12, 3402~3405 (2010)
森岡秀彰, 三木康裕, 齋藤 慧, 友尾幸司, 石田寿昌, 他	Crystallization and preliminary X-ray crystallographic analysis of Bx1A, an intracellular β-D-xylosidase from <i>Streptomyces thermoviolaceus</i> OPC-520	Acta Cryst., F66, 791~793 (2010)
友尾幸司	Development of cathepsin inhibitors and structure-based design of cathepsin B-specific inhibitor	Curr.Top. Med. Chem., 10, 696~707 (2010)
友尾幸司, 石田寿昌, 他	Study of lysozyme glycation reaction by mass spectroscopy and NMR spectroscopy	Helv. Chim. Acta. 93, 991~998 (2010)
小林祐次, 他	Structure and reaction mechanism of human nicotinamide phosphoribosyltransferase	J. Biochem., 147, 95~107 (2010)
小林祐次, 他	Structural and dynamic features of the MutT protein in the recognition of nucleotides with the mutagenic 8-oxoguanine base	J. Biol. Chem., 285, 444~452 (2010)
小林祐次, 他	Cloning, expression, crystallization and preliminary X-ray crystallographic analysis of a human condensin SMC2 hinge domain with short coiled coils	Acta Cryst. F66, 1067~1070(2010)
小林祐次, 他	Thermal effects of added propanol on the helix-coil transition of (Pro-Pro-Gly) <sub>10</sub> in D <sub>2</sub> O solution: An NMR study	Chem. Phys. Lett., 491, 208~213 (2010)
小林祐次, 他	Characterization of HIV-1 resistance to a fusion inhibitor, N36, derived from the gp41 amino-terminal heptad repeat	Antiviral Res., 87, 179~186 (2010)
小林祐次, 他	Structure-activity relationship of marinostatin, a serine protease inhibitor isolated from a marine organism	J. Pept. Sci., 16, 329~336 (2010)
土井光暢, 他	Controlling the helical screw sense of peptides with C-terminal L-valine	J. Pept. Sci., 16, 153~158 (2010)
土井光暢, 他	Conformations of peptides containing a chiral cyclic α, α-disubstituted α-amino acid within the sequence of Aib residues	J. Pept. Sci., 16, 621~626 (2010)
土井光暢, 他	Solid-state conformation of diastereomeric-Pro-Pro-(Aib) <sub>n</sub> sequences	Tetrahedron, 66, 2293~2296 (2010)
浅野晶子, 伊森久美子, 坂口法子, 土井光暢	Crystal Structure of <i>t</i> -Butyloxycarbonyl-L-prolyl-L-hydroxyprolyl-glycine methyl ester (Boc-Pro-Hyp-Gly-OMe)	Anal. Sci. X-Ray Structure Analysis Online, 26, 53~54 (2010)
齊藤陸弘, 今井美帆, 西浦 彩, 佐藤卓史, 千熊正彦	Suppression by cobalt(II) and enhancement by iron(II) ions of DNA damage induced by 2, 2'-azobis(2-amidinopropane) dihydrochloride	Biomed. Res. Trace Elements, 21, 49~52 (2010)

著 者	標 題	掲 載 誌
木田直子, 勝田陽介, 佐藤卓史, 齊藤睦弘, 千熊正彦, 他	Characteristic effect of an anticancer dinuclear platinum(II) complex on the higher-order structure of DNA	J. Biol. Inorg. Chem., 15, 701~707 (2010)
井上晴嗣, 他	The effect of dopamine agonists : The expression of GDNF, NGF, and BDNF in cultured mouse astrocytes	J. Neurol. Sci., 291, 12~16 (2010)
金川康師, 白井僚一, 林 恭三, 池田 潔, 井上晴嗣, 他	Up-regulation of the expressions of phospholipase A <sub>2</sub> inhibitors in the liver of a venomous snake by its own venom phospholipase A <sub>2</sub>	Biochem. Biophys. Res. Commun., 395, 377~381 (2010)
福永理己郎, 他	The E1A-associated p400 protein modulates cell fate decisions by the regulation of ROS homeostasis	PLoS Genetics, 6, e100963, 1~16 (2010)
白井僚一, 後藤力哉, 平野文康, 池田 潔, 井上晴嗣	Autologous extracellular cytochrome c is an endogenous ligand for leucine-rich $\alpha_2$ -glycoprotein and $\beta$ -type phospholipase A <sub>2</sub> inhibitor	J. Biol. Chem., 285, 21607~21614 (2010)
福永理己郎, 他	Essential role of p400/mDomino chromatin-remodeling ATPase in bone marrow hematopoiesis and cell-cycle progression	J. Biol. Chem., 285, 30214~30223 (2010)
福永理己郎, 他	Combined deficiency for MAP kinase-interacting kinase 1 and 2 (Mnk1 and Mnk2) delays tumor development	Proc. Natl. Acad. Sci. USA, 107, 13984~13990 (2010)
井上晴嗣, 他	Transient signaling of Erk1/2, Akt and PLC $\gamma$ induced by nerve growth factor in brain capillary endothelial cells	Vasc. Pharmacol., 53, 107~114 (2010)
福永理己郎, 他	Negative regulatory effects of Mnk kinases in the generation of chemotherapy-induced antileukemic responses	Mol. Pharm., 78, 778~784 (2010)
福永理己郎, 他	Protein phosphatase 2A negatively regulates eukaryotic initiation factor 4E phosphorylation and eIF4F assembly through direct dephosphorylation of Mnk and eIF4E	Neoplasia, 12, 848~855 (2010)
西田正範, 岡本将隆, 大野 愛, 奥村幸治, 林 恭三, 池田 潔, 井上晴嗣	Inhibitory activities of the heterotrimers formed from two $\alpha$ -type phospholipase A <sub>2</sub> inhibitory proteins with different enzyme affinities and importance of the intersubunit electrostatic interaction in trimer formation	Biochim. Biophys. Acta, 1804, 2121~2127 (2010)
坂口 実, 他	A novel cold-adapted cellulase complex from <i>Eisenia foetida</i> : Characterization of a multienzyme complex with carboxymethylcellulase, $\beta$ -glucosidase, $\beta$ -1,3 glucanase, and $\beta$ -xylosidase	Comp. Biochem. Physiol. Part B, 157, 26~32 (2010)
春沢信哉, 小島千尋, 藤井健介, 山下悠作, 田中智也, 荒木理佐, 芳村利信, 坂口 実, 宇佐美吉英, 高岡昌徳	Synthesis of two estradiol-imidazole C-ribonucleoside hybrid compounds exhibiting inhibitory effects against type 1 17 $\beta$ -hydroxysteroid dehydrogenase	Heterocycles, 81, 2817~2830 (2010)
藤森 功, 他	Pronounced adipogenesis and increased insulin sensitivity caused by overproduction of prostaglandin D <sub>2</sub> in vivo	FEBS J., 277, 1410~1419 (2010)
藤森 功, 上野聡之, 天野富美夫, 他	Suppression of adipocyte differentiation by aldo-keto reductase 1B3 acting as prostaglandin F <sub>2<math>\alpha</math></sub> synthase	J. Biol. Chem., 285, 8880~8886 (2010)
藤森 功, 他	Estradiol regulation of lipocalin-type prostaglandin D synthase promoter activity : Evidence for direct and indirect mechanisms	Neurosci. Lett., 474, 17~21 (2010)
藤森 功, 上野聡之, 天野富美夫	Prostaglandin F <sub>2<math>\alpha</math></sub> suppresses early phase of adipogenesis, but is not associated with osteoblastogenesis in mouse mesenchymal stem cells	Prostag. Oth. Lipid M., 93, 52~59 (2010)
天野富美夫, 他	サルモネラおよび黄色ブドウ球菌の輸液チューブへの付着に及ぼす脂肪乳剤の影響	Bacterial Adherence & Biofilm, 23, 85~89 (2010)
佐久間覚, 西岡由紀, 今西亮太, 西川顕治, 坂本博匡, 藤沢淳司, 藤本陽子, 他	<i>cis9, trans11</i> -Conjugated linoleic acid differentiates mouse 3T3-L1 preadipocytes into mature small adipocytes through induction of peroxisome proliferator-activated receptor $\gamma$	J. Clin. Biochem. Nutr., 47, 167~173 (2010)

著 者	標 題	掲 載 誌
佐久間覚, 中西雅彦, 森長和裕, 藤嶽美穂代, 和田俊一, 藤本陽子	Bisphenol A 3, 4-quinone induces the conversion of xanthine dehydrogenase into oxidase in vitro	Food Chem. Toxicol., 48, 2217~2222 (2010)
佐久間覚, 根来美希, 北村隆博, 藤本陽子	Xanthine oxidase-derived reactive oxygen species mediate 4-oxo-2-nonenal-induced hepatocyte cell death	Toxicol. Appl. Pharmacol., 249, 127~131 (2010)
佐久間覚, 藤井友加里, 安部宗将, 荒川行生, 藤本陽子	Perfluorinated carboxylic acids inhibit cyclooxygenase pathway more potently than 12-lipoxygenase pathway in rat platelets	Prostag. Leukor. Ess., 83, 225~228 (2010)
岩永一範, 住澤 亨, 宮崎 誠, 掛見正郎	Characterization of organogel as a novel oral controlled release formulation for lipophilic compounds	Int. J. Pharm., 388, 123~128 (2010)
岩永一範, 林真奈美, 濱畑有記美, 宮崎 誠, 芝野真喜雄, 谷口雅彦, 馬場きみ江, 掛見正郎	Furanocoumarin derivatives in Kampo extract medicines inhibit cytochrome P450 3A4 and P-glycoprotein	Drug Metab. Dispos., 38, 1286~1294 (2010)
田和正志, 福本大起, 山下直人, 大喜多守, 松村靖夫, 他	Postconditioning improves postischemic cardiac dysfunction independently of norepinephrine overflow after reperfusion in rat hearts: Comparison with preconditioning	J. Cardiovasc. Pharmacol., 55, 6~13 (2010)
山下知佳, 松本千佳, 北田研人, 吉岡敏孝, 松村靖夫, 他	Efficacy of olmesartan and nifedipine on recurrent hypoxia-induced left ventricular remodeling in diabetic mice	Life Sci., 86, 322~330 (2010)
吉岡敏孝, 山下知佳, 松本千佳, 松村靖夫, 他	Pitavastatin reduces oxidative stress and attenuates intermittent hypoxia-induced left ventricular remodeling in lean mice	Hypertens. Res., 33, 579~586 (2010)
山下知佳, 吉岡敏孝, 松本千佳, 松村靖夫, 他	Effects of acarbose on the acceleration of postprandial hyperglycemia-induced pathological changes induced by intermittent hypoxia in lean mice	J. Pharmacol. Sci., 114, 32~40 (2010)
大野行弘, 石原 静, 寺田 亮, 他	Antiepileptogenic and anticonvulsive actions of levetiracetam in a pentylenetetrazole kindling model	Epilepsy Res., 89, 360~364 (2010)
大野行弘, 石原 静, 他	A missense mutation of the gene encoding voltage-dependent sodium channel (Na <sub>v</sub> 1.1) confers susceptibility to febrile seizures in rats	J. Neurosci., 30, 5744~5753 (2010)
清水佐紀, 多田羅絢加, 今木淳太, 大野行弘	Role of cortical and striatal 5-HT <sub>1A</sub> receptors in alleviating antipsychotic-induced extrapyramidal disorders	Prog. Neuro-Psychopharmacol. Biol. Psychiat., 34, 877~881 (2010)
大野行弘, 他	Pharmacological profile of lurasidone, a novel antipsychotic agent with potent 5-Hydroxytryptamine 7(5-HT <sub>7</sub> ) and 5-HT <sub>1A</sub> receptor activity	J. Pharmacol. Exp. Ther., 334, 171~181 (2010)
大野行弘, 岡野元紀, 今木淳太, 多田羅絢加, 奥村貴裕, 清水佐紀	Atypical antipsychotic properties of blonanserin, a novel dopamine D <sub>2</sub> and 5-HT <sub>2A</sub> antagonist	Pharmacol. Biochem. Behav., 96, 175~180 (2010)
大野行弘, 祖父江伸匡, 今奥琢士, 森下恵理, 他	Serotonergic modulation of absence-like seizures in Groggy rats: A novel rat model of absence epilepsy	J. Pharmacol. Sci., 114, 99~105 (2010)
祖父江伸匡, 大野行弘, 他	Inhibitory effects of levetiracetam on absence seizures in a novel absence-like epilepsy animal model, Groggy rat	Brain Res., 1359, 298~303 (2010)
大野行弘, 祖父江伸匡, 石原 静, 他	<i>Scn1a</i> missense mutation impairs GABA <sub>A</sub> receptor-mediated synaptic transmission in the rat hippocampus	Biochem. Biophys. Res. Commun., 400, 117~122 (2010)
山本裕美, 田中一彦, 他	Chymase inhibitor prevents the nonalcoholic steatohepatitis in hamsters fed a methionine- and choline-deficient diet	Hepatol. Res., 40, 514~523 (2010)
加藤隆見, 西出まみ, 高津千裕, 岩本明日香, 井尻好雄, 田中一彦, 他	Is cyclosporine A transport inhibited by pravastatin via multidrug resistant protein 2?	Eur. J. Clin. Pharmacol., 66, 153~158 (2010)



著者	標 題	掲 載 誌
三木春奈, 他	Potential of disease-associated cystic fibrosis transmembrane conductance regulator mutants by hydrolyzable ATP analogs	J. Biol.Chem., 285, 19967~19975 (2010)
加藤隆児, 森口 純, 入江貴子, 中川真智子, 楠川侑吾, 井尻好雄, 田中一彦, 他	Effects of lipopolysaccharide on P-glycoprotein expression and activity in the liver and kidneys	Eur. J. Pharmacol., 636, 155~158 (2010)
加藤隆児, 井尻好雄, 田中一彦, 他	Interference between eplerenone and digoxin in fluorescence polarization immunoassay, microparticle enzyme immunoassay, and affinity column-mediated immunoassay	Ther. Drug Monit., 32, 774~777 (2010)
加藤隆児, 中野里香, 三木春奈, 鈴木聖子, 説田英利子, 浦嶋庸子, 幸田祐佳, 松村人志, 井尻好雄, 田中一彦, 他	Saturation pharmacokinetics of sedative agent, JM-1232(-) ((-)-3-[2-(4-methyl-1-piperazinyl)-2-oxoethyl]-2-phenyl-3, 5, 6, 7-tetrahydrocyclopenta[f] isindole-1(2H)-one) at high-dose in rats	循環制御, 31, 196~201 (2010)
松村人志, 他	Habituation in prepulse inhibition is affected by a polymorphism on the NMDA receptor 2B subunit gene (GRIN2B)	Psychiatr. Genet., 20, 191~198 (2010)
加藤隆児, 森口 純, 入江貴子, 中川真智子, 楠川侑吾, 松村人志, 井尻好雄, 田中一彦	Effects of lipopolysaccharide on P-glycoprotein expression and activity in the liver and kidneys	Eur. J. Pharmacol., 636, 155~158 (2010)
幸田祐佳, 梅木正嗣, 松村人志, 田中孝生, 他	Thiamine ameliorates diabetes-induced inhibition of pyruvate dehydrogenase (PDH) in rat heart mitochondria : Investigating the discrepancy between PDH activity and PDH E1 $\alpha$ phosphorylation in cardiac fibroblasts exposed to high glucose	J. Pharmacol. Sci., 113, 343~352, (2010)
田中孝生, 安井孝太, 山根一彦, 真鍋美樹, 白居和哉, 幸田祐佳, 他	Thiamine prevents obesity and obesity-associated metabolic disorders in OLETF rats	J. Nutr. Sci. Vitaminol., 56, 335~346, (2010)
加藤隆児, 中野里香, 三木春奈, 鈴木聖子, 説田英利子, 浦嶋庸子, 幸田祐佳, 松村人志, 井尻好雄, 田中一彦, 他	Saturation pharmacokinetics of sedative agent, JM-1232(-) ((-)-3-[2-(4-methyl-1-piperazinyl)-2-oxoethyl]-2-phenyl-3, 5, 6, 7-tetrahydrocyclopenta[f] isindole-1(2H)-one) at high-dose in rats	循環制御, 31, 196~201 (2010)
松村人志, 他	精神科入院病棟に勤務する看護師の諸葛藤が示唆する精神科看護の問題点	日本看護研究学会雑誌, 33, 49~59 (2010)
神野伸一郎, 堀尾有加, 箕浦克彦, 加地真也, 山口敬子, 宇佐美吉英, 藤田芳一, 他	A new class of rhodamine luminophores : design, syntheses and aggregation-induced emission enhancement	Chem.Commun., 46, 9013~9015 (2010)
水津智樹, 藤本裕介, 福田綾乃, 藤本 剛, 山口敬子, 藤田芳一	<i>N, N</i> -ジエチル- <i>p</i> -フェニレンジアミンとチモキノンをを用いる銅(II)の吸光光度定量	分析化学, 59, 673~677 (2010)
須崎菜穂子, 加地真也, 宮地加奈子, 森山健三, 神野伸一郎, 山口敬子, 藤田芳一	<i>o</i> -スルホフェニルフルオロンとガリウム(III)を用いる製剤中クロロプロマジンの吸光光度定量	分析化学, 59, 727~732 (2010)
好田稔規, 玉木冴子, 宮地加奈子, 森山健三, 森本茂文, 山口敬子, 藤田芳一	<i>o</i> -カルボキシフェニルフルオロン-鉄(III)錯体を用いるヘパリン及びその関連物質の吸光光度定量	分析化学, 59, 873~878 (2010)

著者	標 題	掲 載 誌
佐久間覚, 藤井友加里, 安部宗将, 荒川行生, 藤本陽子	Perfluorinated carboxylic acids inhibit cyclooxygenase pathway more potently than 12-lipoxygenase pathway in rat platelets	Prostag. Leukotr. Ess., 83, 225~228 (2010)
恩田光子, 鈴木靖規, 羽田理恵, 藤井順平, 廣中浩佑, 荒川行生, 他	保険薬局におけるプライバシーへの配慮と薬物治療に対する患者姿勢との関連	社会薬学, 28, 22~28 (2010)
恩田光子, 他	ファーマシューティカルケアの薬剤経済学的研究に関する検討	日本病院薬剤師会雑誌, 46, 28~31 (2010)
恩田光子, 他	ファーマシューティカルケアの薬剤経済学的研究に関する検討	日本病院薬剤師会雑誌, 46, 1004~1007 (2010)
恩田光子, 荒川行生, 他	抗菌剤使用に着目したDPC病院における肺炎治療に関するベンチマーク	日本医療・病院管理学会誌, 47, 61~68 (2010)
高儀佳代子, 恩田光子, 荒川行生, 他	妊婦・授乳婦の服薬への意識に関する調査研究	薬学雑誌, 130, 1381~1385 (2010)
恩田光子, 田中理恵, 坪田賢一, 的場俊哉, 向井祐亮, 荒川行生, 他	「薬剤師による居宅療養管理指導」のケアプランへの組み入れに関する研究~ケアマネージャー調査からの考察~	薬学雑誌, 130, 1573~1579 (2010)
恩田光子, 他	処方せん様式再変更後におけるベンシル酸アムロジピンの後発医薬品変更調剤と薬局薬剤師の意識に関する調査	ジェネリック研究, 4, 24~29 (2010)
瀧川桂子, 箕浦克彦, 沼田 敦, 他	Gymnastatins I-K, cancer cell growth inhibitors from a sponge-derived <i>gymnascella dankaliensis</i>	Heterocycles, 81, 897~907 (2010)
鳴戸佳子, 箕浦克彦, 奥田良平, 尹 康子, 石田寿昌, 友尾幸司, 他	Interplay between I308 and Y310 residues in the third repeat of microtubule-binding domain is essential for tau filament formation	FEBS Lett., 584, 4233~4236 (2010)
佐久間覚, 中西雅彦, 森長和裕, 藤嶽美穂代, 和田俊一, 藤本陽子	Bisphenol A 3, 4-quinone induces the conversion of xanthine dehydrogenase into oxidase in vitro	Food Chem. Toxicol., 48, 2217~2222 (2010)
宇佐美吉英, 谷口雅彦, 藤嶽美穂代, 他	Antitumor Agents. 282. 2-(R)-O-Acetylglauucarubinone, a quassinoid from <i>Odyendyea gabonensis</i> as a potential anti-breast and anti-ovarian cancer agent	J. Nat. Prod., 73, 1553~1558 (2010)
山沖留美, 木村挺二郎, 他	Analysis of electron spin resonance spectra of irradiated gingers: Organic radical components derived from carbohydrates	Radiat. Phys. Chem., 79, 417~423 (2010)
梶本哲也, 他	Glycosylation from the Non-reducing End Using a Combination of Thioglycoside and Glycosyl Sulfoxide as the Glycosyl Donor and the Acceptor	Chem. Pharm. Bull., 58, 758~764 (2010)

## 2. 総説・解説

著者	標 題	掲 載 誌
荒木理佐, 春沢信哉	生体機能性分子を目的としたイミダゾールC-ヌクレオシドの合成研究	薬学雑誌, 130, 1707~1724 (2010)
芝野真喜雄, 他	栽培甘草の化学的品質評価の検討について	薬用植物研究, 32, 3~8 (2010)
平田雅彦, 大桃善朗, 他	非小細胞肺癌に対するゲフィチニブの感受性と薬効予測	日本分子イメージング学会機関誌 (JSMI Report), 3, 30~31 (2010)
天野富美夫	マクロファージの機能に着目した香料の科学の新たな展開に向けて	香料, 247, 35~47 (2010)
掛見正郎	「医療連携のもと, 薬物療法を主体的に行える薬剤師」の養成 - 21世紀の医療を支える新しい薬剤師像の提案	月刊薬事, 52, 1861~1867 (2010)

著者	標 題	掲 載 誌
北田研人, 松村靖夫, 他	血管病変におけるエンドセリン受容体サブタイプの役割とその性差	血管, 33, 89~96 (2010)
大野行弘	New insight into the therapeutic role of 5-HT <sub>1A</sub> receptors in central nervous system disorders	Cent. Nerv. Syst. Agents Med. Chem., 10, 148~157 (2010)
加藤隆児, 井尻好雄, 田中一彦	レメロン錠15mg, リフレックス錠15mg	調剤と情報, 16, 589~601 (2010)
加藤隆児, 井尻好雄, 田中一彦	重大な副作用とその初期症状の見方・考え方	循環制御, 31, 187~192 (2010)
藤田芳一	薬剤師のためのやさしいフィジカルアセスメント/バイタルサインの基礎講座 第1回 シリーズを始めるにあたって	大阪府薬雑誌, 61 (4), 15~19 (2010)
藤田芳一	薬剤師のためのやさしいフィジカルアセスメント/バイタルサインの基礎講座 第2回 フィジカルアセスメント入門	大阪府薬雑誌, 61 (5), 18~22 (2010)
藤田芳一	薬剤師のためのやさしいフィジカルアセスメント/バイタルサインの基礎講座 第3回 バイタルサインの概要と体温(その1)	大阪府薬雑誌, 61 (6), 59~65 (2010)
藤田芳一	薬剤師のためのやさしいフィジカルアセスメント/バイタルサインの基礎講座 第4回 体温(その2)	大阪府薬雑誌, 61 (7), 22~28 (2010)
藤田芳一	薬剤師のためのやさしいフィジカルアセスメント/バイタルサインの基礎講座 第5回 血圧(その1)	大阪府薬雑誌, 61 (8), 25~33 (2010)
藤田芳一	薬剤師のためのやさしいフィジカルアセスメント/バイタルサインの基礎講座 第6回 血圧(その2)	大阪府薬雑誌, 61 (9), 40~46 (2010)
藤田芳一	薬剤師のためのやさしいフィジカルアセスメント/バイタルサインの基礎講座 第7回 血圧(その3)	大阪府薬雑誌, 61 (10), 21~29 (2010)
藤田芳一	薬剤師のためのやさしいフィジカルアセスメント/バイタルサインの基礎講座 第8回 脈拍(その1)	大阪府薬雑誌, 61 (11), 16~23 (2010)
藤田芳一	薬剤師のためのやさしいフィジカルアセスメント/バイタルサインの基礎講座 第9回 脈拍(その2)	大阪府薬雑誌, 61 (12), 18~28 (2010)
山口敬子	原子吸光分析の基礎	第57回機器による分析化学講習会テキスト, 93~101 (2010)
恩田光子	データで見る薬剤師の患者への貢献(ICUにおける薬剤師の介入とその効果)	YAKUZEMJ PLUS (医学アカデミー), 8, 23 (2010)
恩田光子	データで見る薬剤師の患者への貢献(抗菌薬の適正使用への薬剤師のかかわりとその効果)	YAKUZEMJ PLUS (医学アカデミー), 9, 24 (2010)
恩田光子	データで見る薬剤師の患者への貢献(薬剤師の回診チームへの参加とその効果)	YAKUZEMJ PLUS (医学アカデミー), 10, 24 (2010)
恩田光子	データで見る薬剤師の患者への貢献(入院患者の薬物治療管理への薬剤師の参画とその効果)	YAKUZEMJ PLUS (医学アカデミー), 11, 24 (2010)
恩田光子	知っておきたい医療と法律「薬の処方, 調剤に関わる法律(薬剤師法を中心に)」	Modern Physician (新興医学出版社), 30, 1269~1272 (2010)

### 3. 紀要・翻訳

著者	標 題	掲 載 誌
宇佐美吉英	抗腫瘍性天然物 pericosine A の新規合成法の開発と誘導体の生理活性について	大阪薬科大学紀要, 4, 75~83 (2010)
Ada Yonath, 小林祐次	冬眠するクマ, 抗生物質そして進化するリボソーム(前編) Hibernating bears, antibiotics and the evolving ribosome	化学 (化学同人), 65, 41~48 (2010)
Ada Yonath, 小林祐次	冬眠するクマ, 抗生物質そして進化するリボソーム(後編) Hibernating bears, antibiotics and the evolving ribosome	化学 (化学同人), 65, 48~53 (2010)
小林祐次	思い出: コラーゲンモデルペプチドの研究を中心に	生産と技術, 62, 1~4 (2010)

著者	標 題	掲 載 誌
白井僚一, 平野文康, 池田 潔, 井上晴嗣, 他	急性期炎症時の肝臓細胞におけるロイシンリッチ $\alpha_2$ グリコプロテイン(LRG)の発現	大阪薬科大学紀要, 4, 85~92 (2010)
藤森 功, 天野富美夫	Involvement of forkhead transcription factor Foxal in adipocyte differentiation of mouse mesenchymal stem cells	大阪薬科大学紀要, 4, 61~73 (2010)
加藤隆児, 井尻好雄	11th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring and Clinical Toxicologyに参加して	大阪薬科大学紀要, 4, 133~136 (2010)
松村人志, 他	入院中の統合失調症患者への集団認知行動療法プログラムに関する有効性の検討	東亜臨床心理学研究 (東亜大学大学院総合学術研究科臨床心理学専攻紀要), 9, 11~23 (2010)
神野伸一郎, 藤田芳一	キサントン系色素の分析化学的利用と創製に関する研究	大阪薬科大学紀要, 4, 117~132 (2010)
濱中久美子	文学とキリスト教の狭間で	大阪薬科大学紀要, 4, 41~57 (2010)

#### 4. 著 書

著者	標 題	出 版 社
馬場きみ江, 他	小野蘭山 ~小野蘭山とアシタバ~	八坂書房, 7~13 (2010)
石田寿昌	物理化学~熱力学, その基礎と応用~ 第2版	京都廣川書店 (2010)
井上晴嗣, 他	レーニンジャーの新生化学[上]第5版 Chap.2 水 Chap.5 タンパク質の機能	廣川書店, 59~100, 221~266(2010)
井上晴嗣, 他	キャンベル・ファーレル 生化学 第6版 Chapter 3 アミノ酸とペプチド Chapter 5 タンパク質の精製と特性解明のための技術	廣川書店, 81~107, 155~180(2010)
辻坊 裕, 他	日本薬学会編 スタンダード薬学シリーズ4 生物系薬学 II, 生命をミクロに理解する 第2版	東京化学同人 (2010)
掛見正郎, 田中一彦, 西野隆雄	薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構編 「薬学生のための病院・薬局実務実習テキスト 2010年版」	じほう (2010)
掛見正郎, 他	辻 彰編 「薬剤師のための常用医薬品情報集 2010年版」	廣川書店 (2010)
大野行弘, 他	「New医薬品の安全性学」 第8章 急性薬毒物中毒とその処置および生活環境中の有害化学物質の安全性-8.1 急性薬毒物中毒とその処置	廣川書店, 115~126 (2010)
大野行弘, 他	「New医薬品の安全性学」 第13章 医薬品の主たる副作用・有害作用-13.3 循環器障害	廣川書店, 275~284 (2010)
大野行弘, 他	「New医薬品の安全性学」 第13章 医薬品の主たる副作用・有害作用-13.4 神経障害	廣川書店, 284~295 (2010)
河合悦子, 他	「腎とフリーラジカル」 第10集 シスプラチンによるepithelial-mesenchymal transitionへの抗酸化剤の影響	東京医学社, 127~130 (2010)
松村人志, 他	SWNS-J手引き(抗精神病薬治療下主観的ウェルビーイング評価尺度短縮版の日本語版)	星和書店 (2010)
藤田芳一, 他	新版増補 生命倫理事典	太陽出版 (2010)
恩田光子, 他	諸外国の薬剤給付制度と動向	薬事日報社 (2010)
梶本哲也, 他	日本発ブロックバスターを目指して~創薬研究の最前線~ 「第3編 プロセス支援研究の最前線, 第5章 酵素反応によるC-C結合形成と創薬研究への展開」	シーエムシー出版, 238~248 (2010)
松島哲久, 他	薬学生のための医療倫理	丸善, 1~3, 8~9, 21, 36~43, 86~99, 110~111, 130, 148, 166, 192, 208(2010)

## 総務課

## ■人 事

## &lt;大学関係&gt;

採用(平成23年4月1日付)

教授(特任) 長船 芳和

教授(特任) 梶本 哲也

准教授 スミス 朋子

助手(嘱託職員) 浅野麻実子

助手(嘱託職員) 小川 洋子

助手(嘱託職員) 菊地 崇

助手(嘱託職員) 孝田 哲也

助手(嘱託職員) 田中 早織

助手(嘱託職員) 田中 智

助手(嘱託職員) 田中 有香

助手(嘱託職員) 田中 亮輔

助手(嘱託職員) 米山 弘樹

(平成23年4月16日付)

教授(特任) 長谷川健次

退職(平成23年3月31日付)

教授 加藤 義春(定年)

教授 馬場きみ江(定年)

講師 齊藤 睦弘

昇任(平成23年4月1日付)

講師 箕浦 克彦

講師 幸田 祐佳

(平成23年4月16日付)

教授 大野 行弘

准教授 宮本 勝城

准教授 宇佐美吉英

准教授 和田 俊一

准教授 山田 剛司

併任(平成23年4月1日付)

教務部長 辻坊 裕(教授)

学生部長 楠瀬 健昭(教授)

研究委員長 土井 光暢(教授)

薬用植物園長 田中 麗子(教授)

(平成23年4月11日付)

大学院博士前期課程担当教員 箕浦 克彦(講師)

大学院博士前期課程担当教員 幸田 祐佳(講師)

(平成23年5月12日付)

大学院博士後期課程担当教員 宮本 勝城(准教授)

大学院博士後期課程担当教員 宇佐美吉英(准教授)

大学院博士後期課程担当教員 和田 俊一(准教授)

大学院博士後期課程担当教員 山田 剛司(准教授)

委嘱(平成23年2月1日付)

薬局長 真下 博孝(嘱託職員)

(平成23年4月1日付)

教授 田中 一彦(嘱託)

教授 加藤 義春(嘱託)

教授 馬場きみ江(嘱託)

客員教授 小林 祐次

校医 柚木 孝仁(非常勤)

学生相談室顧問 米田 博(非常勤)

学生相談室相談員 小田 佳子(非常勤)

学生相談室相談員 川端 康雄(非常勤)

客員研究員(平成23年4月1日付)

濱 六郎

相馬 義郎

Tzyh-Chang Hwang

木曾 良明

(平成23年5月1日付)

田伏 克惇

中張 隆司

招へい教授(平成23年4月1日付)

濱 六郎

Tzyh-Chang Hwang

木曾 良明

(平成23年5月1日付)

田伏 克惇

非常勤講師

(前期:平成23年4月1日付)

阿比留 平(医薬品開発学)

伊藤 信也(人間と文化4b(女性学)、異文化言語演習1)

井上 径子(英語1)

神竹 道士(ドイツ語2)

桑田 成規(医療情報学)

田島 昭洋(ドイツ語1)

武内 徹(免疫学)

谷口 智美(フランス語1、2)

鶴 真一(フランス語4、人間と文化4a(人間と宗教))

東井 孝之(異文化言語演習1、薬学英语1)

戸田 有一(人間と文化1b(人間と心理)、異文化言語演習1)

朝野 和典(臨床感染症学)

中村 隆志(人間と文化1a(人間と法))  
 中村 惠(ドイツ語1、2、4、異文化言語演習1)  
 中元 安雄(調剤学実習)  
 長谷川健一(ドイツ語4)  
 橋口 雅美(健康科学演習)  
 樋口 久(英語1)  
 人見 滋樹(臨床導入実習)  
 藤岡 重和(臨床生理学)  
 藤本 幸治(異文化言語演習1)  
 藤原 英明(医用工学概論)  
 榎矢 桂一(ドイツ語1、2、異文化言語演習1)  
 松村 泰志(医療情報学)  
 森山 健三(東洋医学概論)  
 和田 晋一(臨床生理学)  
 和佐 勝史(臨床栄養学)  
 Ian Murray Richards(英語3)  
 Joseph Michael Jacobs(英語3)  
 久保 護(補習(化学))  
 阪本 秀敏(補習(生物))  
 宮田 真希(健康科学演習)(非常勤助手)  
 門川 裕美(健康科学演習)(非常勤助手)

## &lt;法人関係&gt;

## 評議員退任(平成23年3月31日付)

馬場きみ江

(平成23年5月10日付)

岡田 健治

掛見 正郎

土井 勝

松村 靖夫

美並 慶子

## 評議員就任(平成23年4月1日付)

藤田 芳一

(平成23年5月11日付)

池田 潔

石田 寿昌

植木 實

大谷 光昭

岡村 一美

小田 早苗

織田 美夫

堅田 義次

楠瀬 健昭

坂田 勝治

常風 潤一  
 武枝 敏之  
 田嵩 政郎  
 田中 京子  
 田部 信重  
 辻坊 裕  
 寺本 武史  
 土井 光暢  
 中元 安雄  
 濱 一郎  
 浜岡 純治  
 人見 滋樹  
 藤井 政善  
 藤田 芳一  
 矢内原千鶴子  
 山西 弘一

## 理事退任(平成23年6月19日付)

田中 京子

土井 勝

掛見 正郎

## 理事就任(平成23年6月20日付)

井上 通敏

織田 美夫

楠瀬 健昭

常風 潤一

武枝 敏之

田部 信重

辻坊 裕

浜岡 純治

人見 滋樹

矢内原千鶴子

## ■学位記授与式

平成23年3月19日(土)午前10時30分よりD棟講堂において、平成22年度大阪薬科大学学位記授与式(学部21名、大学院博士前期(修士)課程67名)が来賓・保護者多数参列のもとに挙行されました。



## ■入学式

平成23年4月1日(金)午前10時30分よりD棟講堂において、平成23年度大阪薬科大学入学式(学部310名、大学院薬科学専攻修士課程19名、薬学専攻博士後期課程1名)が来賓・保護者多数参列のもとに挙行されました。



## ■海外出張

松島 哲久 教授(環境医療学グループ)

＜出張期間：平成23年3月23日～3月30日＞

第5回日仏生命倫理会議参加・発表、ブレスト大学研究会出席・発表(フランス)

宮崎 誠 講師(薬剤学研究室)

＜出張期間：平成23年4月22日～4月25日＞

第4回ISSXアジア太平洋地域会議出席・発表(台湾)

小林 祐次 客員教授(創薬基盤科学研究室)

＜出張期間：平成23年6月24日～7月2日＞

第22回アメリカンペプチドシンポジウム出席・発表(アメリカ)

## ■慶 弔

＜叙勲＞

松永 春洋 名誉教授(平成23年4月29日受章)

＜瑞宝小綬章＞

＜訃報＞

吉田 嶺吉 名誉教授(平成23年5月5日逝去)

## ■寄 付

ビオフェルミン製薬株式会社

本学研究活動への寄付金として100万円

(平成23年3月28日付)

## 平成23年度 科学研究費補助金採択状況

区分	職名	氏名	研究種目	研究課題	直接経費 (千円)	間接経費 (千円)
継続	客員教授	小林 祐次	基盤研究(B)	終末糖化産物の受容体(RAGE)を標的とする糖尿病合併症の予防・治療薬の探索	1,500	450
	講師	藤森 功	基盤研究(C)	脂質メディエーターによる脂肪細胞分化抑制の分子基盤	1,000	300
	講師	箕浦 克彦	基盤研究(C)	認知症治療薬の開発を目指したタウ蛋白質の構造機能解析と自己凝集機構の解明	900	270
	教授	春沢 信哉	基盤研究(C)	リボザイムの機能解明と乳癌抑制作用を持つイミダゾールC-ヌクレオシドの合成	600	180
	教授	天野富美夫	基盤研究(C)	サルモネラの乾燥耐性獲得機構に関する研究	900	270
	准教授	友尾 幸司	基盤研究(C)	新規抗ガン剤開発のための翻訳開始因子4Eの機能制御物質の探索	900	270
	教授	辻坊 裕	基盤研究(C)	細菌のキチン分解機構に関する研究	800	240
	講師	佐藤 卓史	基盤研究(C)	ピラゾール型架橋配位子を有する陽電荷白金二核錯体の制がん活性発現機構の解明	600	180
	教授	大野 行弘	基盤研究(C)	脳アストロサイトのカリウム緩衝機能に着目したてんかん病態研究	1,000	300
	准教授	和田 俊一	基盤研究(C)	膜透過性Aib含有ペプチドの核酸医薬への応用	900	270
新規	講師	藤森 功	新学術領域研究	プロスタグランジン類およびそれらの代謝物による代謝疾患制御	3,100	930
	教授	福永理己郎	新学術領域研究	造血細胞の増殖・分化を制御するクロマチン構造変換の分子機構の解明	1,800	540
	* 准教授	山田 剛司	基盤研究(C)	海洋生物由来菌類の産生する抗がん剤のシーズの探索及びリード化合物の開発	1,300	390
	* 准教授	井上 晴範	基盤研究(C)	LRGノックアウトマウスの解析による新規シグナル分子としてのシトクロムCの役割	1,900	570
	* 教授	石田 寿昌	基盤研究(C)	タウ重合に必須なCH- $\pi$ 相互作用阻害剤の開発：認知症治療薬開発の基盤研究	2,600	780
	* 講師	大喜多 守	基盤研究(C)	一酸化窒素産生を絶対的に支配するエンドセリン-1およびその受容体の意義	1,200	360
	* 助教	平田 雅彦	基盤研究(C)	EGFシグナル阻害による癌治療計画の支援システム構築を目指した新規診断薬の開発	1,200	360
*は、学術研究助成基金助成金					17件	6,660

## 文部科学省「平成23年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択

文部科学省へ申請していた下記プロジェクトが、「平成23年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択されました。

この事業は、私立大学が各大学の経営戦略に基づいて行う研究基盤の形成を支援するため、選定されたプロジェクトに対して重点的かつ総合的に補助が行われるもので、我が国の科学技術の進展に資することを目的としています。

### 【研究プロジェクト名】

組織的研究体系による次世代型感染症治療薬の開発

### 【研究代表者】

辻坊 裕 教授

## 日本私立学校振興・共済事業団「平成23年度学術研究振興資金(若手研究者奨励金)」に採択

日本私立学校振興・共済事業団「平成23年度学術研究振興資金(若手研究者奨励金)」に応募していた下記研究課題が採択されました。

私学事業団では、学術研究振興基金を設け、その運用益を「学術研究振興基金」として私立大学等の優れた学術研究に交付しており、この資金の一部を優れた研究能力を有する若手研究者の研究意欲を高め、研究の発展を支援するため「学術研究振興資金(若手研究者奨励金)」として交付しています。

### 【研究課題名】

炎症の治癒期間短縮化とがん細胞の増殖・転移抑制を目標とした研究

—細胞の増殖・再生とCOX-2との関連性—

### 【研究者】

加藤 隆児 助教

## 附属薬局健康講座が開催されました

学校法人大阪薬科大学附属薬局では、平成21年度より定期的に患者さま向けの健康講座を開催しています。平成23年6月4日(土)には大阪大学医学部附属病院泌尿器科・高尾哲也先生を講師に招き、「排尿の悩み ～下部尿路症状の診断と治療～」をテーマに第8回健康講座を開催し、約60名の方にご参加いただきました。

## 高槻市大学交流センター事業への参画

高槻市では、市内の5大学(関西大学、大阪医科大学、平安女学院大学、京都大学大学院農学研究科附属農場、本学)が有する教育研究機能や学生の感性・行動力を活かして、都市文化の振興とまちの活性化を図っており、大学・学生と市民との幅広い交流活動を促進するため、大学交流センター事業を実施しています。

同事業の一環として各大学と高槻市が相互に協力し合い市民講座を開催していますが、本学が関係するイベントは次のとおりです。

### 〈高槻市大学交流センター事業市民講座〉

主催：大阪薬科大学

【テーマ】 「私たちの暮らしと放射線」

【講師】 大阪薬科大学 生体機能診断学研究室  
准教授 大桃 善朗

【日時】 平成23年8月27日(土) 15:00～16:00

【場所】 高槻市立総合市民交流センター  
7階第6会議室

### 〈市内5大学リレー市民講座〉

主催：高槻市

【テーマ】 「安心・安全なまちづくりを考える」

【日時】 平成23年12月10日(土) 13:00～16:30

【場所】 高槻市立総合市民交流センター  
8階イベントホール

※その他、詳細は未定です。

## 小学生が社会見学に訪れました

本学では地域連携の一環として、近隣の小学校、中学校からの見学や就業体験を積極的に受け入れています。平成23年6月8日(水)に阿武山小学校3年生児童40名が「総合的な学習の時間」として本学の見学に訪れました。子供たちは研究室や薬用植物園を見学し、初めて目にするものに興味津々の様子で職員にいろいろな質問を投げかけていました。挨拶もハキハキと元気いっぱいにしてくれた子供たち。帰り際に「楽しかった」と言ってもらい、小学校へ帰って行く子供たちを笑顔で見送りました。

なお、6月30日(木)、7月1日(金)の2日間、「就業体験」として阿武山中学校2年生生徒2名に図書館の仕事を体験してもらう予定です。





## 研究管理支援室

## ○平成22年度 実験動物、遺伝子組換え、及びバイオセーフティーに関する合同安全講習会

日時：平成23年2月18日（金）午後5時30分～

場所：C202講義室

- 内容：1. バイオハザード予防委員会  
委員長 天野 富美夫 教授  
「実験の安全に関する規則等」に関する説明  
(バイオセーフティーを含む)
2. 遺伝子組換え実験等安全委員会  
安全主任者 井上 晴嗣 准教授  
「遺伝子組換え実験とカルタヘナ法」に関する説明
3. 動物関連研究施設  
管理責任者 安田 正秀 准教授  
「動物実験におけるSCAWの苦痛分類」に関する説明

対象：教員、大学院生、薬科学科4年次生、研究生等のうち、実験動物、遺伝子組換え、及びバイオセーフティーに関する実験のいずれかに従事する人

## ○ケミカルハザードに関する講演会

主催：ケミカルハザード予防管理委員会

委員長 春沢 信哉 教授

日時：平成23年4月8日（金）午後4時30分～

場所：D301講義室

講師：医療法人崇孝会理事長 柚木 孝仁 氏

演題：「有機溶剤と特定化学物質の取り扱い」

対象：5、6年次生の特別研究生、大学院生、教員

## 経理課

## 学費納付書の送付について

学費納付書は、毎年、前期分は4月初旬に、後期分は10月初旬にご自宅へ郵送しています。

納付期日は、次のとおりです。

前期分学費	4月16日から4月30日
後期分学費	10月16日から10月30日

なお、納付金を滞納し、督促を受けても所定期日までに納付しない者は除籍となりますので、ご注意ください  
(学部：大阪薬科大学学則第17条、大学院：大阪薬科大学大学院学則第28条参照)。

納付が遅れる特別な事情がある方は、大学（学生課）に事前にご連絡ください。

## 教務課

## 学位授与

[修士]

修士（薬学） 男子43名 女子24名 合計67名  
(平成23年3月19日付)

[学士]

学士（薬科学） 男子15名 女子2名 合計17名  
薬科学科 17名（男子15名、女子2名）  
学士（薬学） 男子2名 女子2名 合計4名  
薬学科 1名（男子1名、女子0名）  
生命薬学科 3名（男子1名、女子2名）  
(平成23年3月19日付)

## 入試課

## 平成23年度 進学説明会

開催日：平成23年6月10日（金）

場所：ホテルグランヴィア大阪

参加校：52校

参加者数：56名

プログラム：第一部 入試説明

第二部 キャリアサポートについて ～進路・就職指導支援～



## 平成23年度 入試結果

入試種別	公募制推薦入試 (S方式)	一般入試Ⅰ (F方式)	一般入試Ⅱ (G方式)	センター試験利用入試 (C方式)	後期センター試験利用入試 (M方式)	帰国生徒特別選抜入試 (K方式)	編入試 (H方式)
募集人員	80	70	80	20	10	若干名	5
志願者	456	433	769	666	22	0	3
受験者	453	425	602	666	22	0	3
合格者	169	203	205	232	9	0	0
入学者	92	88	72	26	2	0	0

## 平成23年度 大学院入試結果

入試種別	薬科学専攻修士課程	
	一般入試(一次)	一般入試(二次)
募集人員	20	若干名
志願者	19	1
受験者	19	1
合格者	19	1
入学者	18	1

入試種別	薬学専攻博士後期(博士)課程	
	内部進学	外部
募集人員	5	
志願者	1	0
受験者	1	-
合格者	1	-
入学者	1	-

## 平成24年度 入試概要

入試種別	公募制推薦入試 (S方式)	一般入試 I (F方式)	一般入試 II (G方式)
募集人員	80名	70名	80名
出願開始日	平成23年11月1日(火)	平成24年1月6日(金)	平成24年1月6日(金)
出願締切日	平成23年11月8日(火)消印有効	平成24年1月26日(木)消印有効 平成24年1月27日(金)のみ持参可	平成24年2月3日(金)消印有効 平成24年2月6日(月)のみ持参可
入学試験日	平成23年11月12日(土)	平成24年2月1日(水)	平成24年2月9日(木)
合格発表日	平成23年11月22日(火)	平成24年2月7日(火)	平成24年2月16日(木)
選考内容 (時間・配点)	<p>[調査書] 150点 (理科、外国語の評定平均値各25点、 数学、全体の評定平均値各50点)</p> <p>適性確認</p> <p>[理科] 75分 150点 化学Ⅰ、生物Ⅰ から1科目を選択する</p> <p>[外国語] 60分 100点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング</p>	<p>[理科] 90分 100点 化学(化学Ⅰ、化学Ⅱ「選択分野を含む」) 生物(生物Ⅰ、生物Ⅱ「選択分野を含む」) から1科目を選択する</p> <p>[外国語] 75分 75点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング</p> <p>[数学] 75分 75点 数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学A 数学B(数列、ベクトル)</p> <p>[調査書] 150点 (理科、外国語、数学の評定平均値各25点、 全体の評定平均値75点)</p>	<p>[理科] 90分 100点 化学(化学Ⅰ、化学Ⅱ「選択分野を含む」) 生物(生物Ⅰ、生物Ⅱ「選択分野を含む」) から1科目を選択する</p> <p>[外国語] 90分 100点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング</p> <p>[数学] 90分 100点 数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学A 数学B(数列、ベクトル)</p>

入試種別	センター試験利用入試 (C方式)	後期センター試験利用入試 (M方式)	帰国生徒特別選抜入試 (K方式)	編入試験 (H方式)
募集人員	20名	10名	若干名	5名
出願開始日	平成24年1月6日(金)	平成24年2月13日(月)	平成23年10月25日(火)	平成23年8月19日(金)
出願締切日	平成24年1月13日(金) 消印有効	平成24年3月1日(木) 消印有効 平成24年3月2日(金) のみ持参可	平成23年10月31日(月) 消印有効	平成23年8月24日(水) 消印有効
入学試験日			平成23年11月12日(土)	平成23年8月31日(水)
合格発表日	平成24年2月7日(火)	平成24年3月8日(木)	平成23年11月22日(火)	平成23年9月6日(火)
選考内容 (時間・配点)	<p>センター試験利用科目</p> <p>[理科] 200点 化学Ⅰ、生物Ⅰ、物理Ⅰの うち高得点科目を採用し、 それを2倍する</p> <p>[外国語] 200点 英語(リスニングを含む) ※記述式(200点満点)とリ スニング(50点満点)の 合計得点を200点満点に 換算する</p> <p>[数学] 100点 数学Ⅰ・数学A 100点 数学Ⅱ・数学B 100点</p> <p>本学の個別学力検査等は実施 しない</p>	<p>センター試験利用科目</p> <p>[理科] 200点 化学Ⅰ、生物Ⅰ、物理Ⅰ から2科目を選択する</p> <p>[外国語] 200点 英(リスニングを除く)、 独、仏、中、韓から1科目を 選択する</p> <p>[数学] 100点 数学Ⅰ・数学A 100点 数学Ⅱ・数学B 100点</p> <p>本学の個別学力検査等は実施 しない</p> <p>[調査書] 200点 (全体の評定平均値を200 点に換算する)</p>	<p>適性確認</p> <p>[理科] 75分 150点 化学Ⅰ、生物Ⅰ から1科目を選択する</p> <p>[外国語] 60分 100点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング</p> <p>[面接] 学習意欲、日本語能力を確 認する 薬学を修める上で必要な 分野を試問する</p>	<p>[英語] 45分 50点 [数学] 45分 50点 [基礎有機化学] 60分 100点 [基礎生物学] 60分 100点 [基礎化学] 60分 100点</p> <p>[面接]</p>

## 学生課

## ○平成23年度 学友会執行委員会

執行委員長	川上 智也	バドミントン部
副執行委員長	田中 由妃	ソフトテニス部
総務局長	銭 瑤子	E.S.S.部
厚生局長	河合 悠衣	ウインターシュプール
広報渉外局長	石本 紗理	硬式庭球部
体育局長	植村 昌弘	軽音楽部
文化局長	山崎 映美	フィールドウォーカーズ部

## ○平成23年度 大薬祭実行委員会

大薬祭実行委員長	笹 結一	硬式野球部
大薬祭副実行委員長	頼宮 弘子	ラグビー部
総務部長	銭 瑤子	E.S.S.部
イベント部長	向井 雄治	アルペンスポーツクラブ
リサイクル部長	池口 詩織	E.S.S.部
装飾部長	羽藤 加奈恵	美術部
渉外部長	門河 果奈	美術部
渉内部長	森 聡子	剣道部

## ○第46回 大薬祭「あにまる」が開催されます

本年度の大薬祭は、「あにまる」をテーマに、平成23年10月28日(金)～10月30日(日)の日程で開催されます。当日は、文化系クラブの発表会を中心に、大薬祭の定番となっている「薔薇祭」やリサイクルなど様々なイベントが行われる予定です。学生たちの楽しい企画にご期待ください。

## クラブ活動を楽しもう!

本学では文化局に9クラブ、体育局に16クラブが公認されています。クラブ活動は学生が自主的に行う活動です。学生生活を豊かにするだけでなく、集団生活を通じて協調性と自立性を養い、人間形成にも有益です。同じ目的に向かって努力し、ときには考え方の違いで人間関係に悩むこともあるかもしれませんが、それらを一緒に乗り越えていくことで、卒業後も一生つきあえる素晴らしい仲間を得られることも、クラブ活動の醍醐味です。

学業が重要であることは言うまでもありませんが、クラブ活動でなければ得ることができない大切なことも、たくさんあります。まだクラブに入っていない人も、大学生のうちにクラブ活動を楽しんでみませんか?

## 新入生交流・導入教育について

新入生の大学への定着を図ることを目的として、毎年6月下旬までの期間にアドバイザー単位で新入生交流・導入教育を実施しています。アドバイザーを交えて新入生同士で企画を考え、今年も様々なプランが立てられ実行されました。

プランの一番人気は「会食」。楽しく食事をとりながら、これからの大学生活や学習方法などについてアドバイザーからアドバイスを受けたり、新入生同士の交流が図られたことと思います。その他のプランとしては、「ボウリング」「京都観光」「サントリー山崎蒸留所」「ユニバーサルスタジオジャパン」「海遊館」「バーベキュー」などが行われました。参加した学生からは、「アドバイザーと話ができて楽しかった」「食事をしながら友だちともたくさん話できてとても良かった」「予想していたよりずっと楽しかった」などの声が届きました。

## 来年度から学内全面禁煙になります

本学では平成21年9月に策定した「分煙と禁煙に関する行動計画」に従い、現在は学内に3箇所の喫煙場所を設けて分煙としていますが、同計画では平成24年4月からキャンパス内を全面禁煙にすることを謳っています。

学生の皆さんにはこれまでに掲示や配付物で次のことを周知してきました。①タバコの煙が健康に及ぼす悪影響は

科学的に証明されていること、②平成15年5月に施行された健康増進法により、人が集まる場所(大学を含む)では受動喫煙を防止することが義務づけられていること、③大阪府健康増進計画では、大学も平成24年4月までに敷地内全面禁煙を目標としているが、大阪府知事からさらなる取り組みを依頼されていること、④医療人を養成する本学においては、全ての構成員が、自己を律し、率先して禁煙に努めなければならないこと。

また、医療人を養成する本学においては、健康に悪影響のあるタバコを吸う場所を安易に学内に設置する訳にはいきません。

キャンパス内全面禁煙の実施まで1年を切りました。喫煙習慣のある人には、自分の健康のために禁煙に向けた行動をとることを期待します。禁煙に関する相談がありましたら、いつでも健康管理支援室を訪ねてください。

## 五月祭(新入生歓迎会)が開催されました

恒例の五月祭(学友会主催)が平成23年5月13日(金)に体育館で開催されました。

軽音楽部・フォークソング部による演奏に始まり、第1部ではコーラス部、ダンスサークルによるステージ、クイズ大会などがあり、第2部では全学年でのビンゴ大会が行われました。沖縄旅行ペアチケットや防水テレビ、最新ポータブルゲーム機など、豪華な景品が多数用意され、大いに盛り上がりました。

学生間のもとより、教職員との交流を深める良い機会となったのではないのでしょうか。



## ～健康管理支援室より～

**平成24年4月からキャンパス内は全面禁煙になります！**

**★今から禁煙にチャレンジしてみませんか？**

《禁煙チャレンジ⇒生活スタイルを変える！》

- チャレンジ1 朝の1本は⇒目覚めは飲料水を飲む！（水・ジュース・牛乳等）
- チャレンジ2 食後の1本は⇒糖分の少ないガムを噛む！
- チャレンジ3 イライラしたら⇒深呼吸やストレッチをする！
- チャレンジ4 夕食後のタバコは⇒食後すぐの歯磨きを！  
まずはチャレンジ1～4を実行してみてください。

《ニコチン依存度チェック》

質問	回答（得点）
①朝、目が覚めてから何分後ぐらいでタバコを吸いますか？	0点⇒61分後以降 1点⇒31～60分 2点⇒6～30分 3点⇒5分以内
②喫煙できない場所で我慢するのが難しいと感じますか？	0点⇒いいえ 1点⇒はい
③1日の喫煙の中でどれが一番やめにくいですか？	1点⇒目覚めの1本 0点⇒その他
④1日に何本吸いますか？	3点⇒31本以上 2点⇒21～30本 1点⇒11～20本 0点⇒10本以下
⑤他の時間帯より起床後2～3時間以内の方がより多く喫煙しますか？	0点⇒いいえ 1点⇒はい
⑥病気で一日寝ているような時でもタバコを吸いますか？	0点⇒いいえ 1点⇒はい

FTND (Fagerstrom Test for Nicotine Dependence) (Heatherton, 1991)

《ニコチン依存度判定》

0～3点 ⇒ニコチン依存度は低い ライトスモーカー *あなたは比較的禁煙しやすい人です。
4～5点 ⇒ニコチン依存度は普通 ミドルスモーカー *平均的なニコチン依存度です。 *あなたの意思次第で禁煙できます。
7～11点⇒ニコチン依存度は高い ヘビースモーカー *禁煙すると禁断症状が強くなります。 *計画的な禁煙をお勧めします。

《あなたに合った禁煙コースでLet's Try!》

★ライトスモーカー

- ①自力コース ⇒禁煙補助薬は使わずに禁煙  
②ガムコース（薬局・薬店）⇒ニコチンガムを使う

★ミドルスモーカー

- ②ガムコース（薬局・薬店）⇒ニコチンガムを使う  
③パッチコース（薬局・薬店）  
⇒市販のニコチンパッチを使う  
④パッチコース（医療機関）  
⇒医師から処方されるニコチンパッチを使う

★ヘビースモーカー

- ④パッチコース（医療機関）  
⇒医師から処方されるニコチンパッチを使う  
⑤飲み薬コース（医療機関）  
⇒医師の指導のもとで飲み薬（バレニクリン）を使う

★失敗してもあきらめずに！

I never give up smoking cessation

★2006年から、禁煙治療は健康保険等の適用になりました。  
（適用条件有り）

《本学近郊の医療機関（禁煙外来）》

郡家クリニック（郡家本町）／高槻赤十字病院（阿武野）／  
井上クリニック（富田町）／高槻駅前クリニック（北園町）／  
深井病院（茶川町）／高槻病院（古曽部町）など

COPD（慢性閉塞性肺疾患）

Chronic Obstructive Pulmonary Diseaseの略

- 空気中の有害物質を吸いこむことで肺機能が低下し、呼吸困難を招く病気です。
- 咳や痰が多くなかなか治らない、軽い労作中に息切れや動悸がする、息苦しく感じる等の症状が続く人は要注意です。
- 最大の原因はタバコです。喫煙者はもちろんのこと、受動喫煙者、喫煙歴のある人も発症します。
- 中高年層に多く、最近はCOPDにかかり死亡する人が増えています。
- 喫煙本数や喫煙年数が長い人ほどCOPDの発症リスクは高いです。
- COPDが進行⇒呼吸不全（血中の酸素不足）になり在宅酸素療法が必要で、完治が難しい疾患です。

吸う人も、吸わない人もタバコは有害です。  
喫煙マナーを守りましょう！

参考資料

- ・禁煙セルフヘルプガイド（法研出版）／「肺の生活習慣病COPD」木田厚瑞 著
- ・ファイザーHP・COPDの情報サイト

## キャリアサポート課

## ●平成22年度5年次生学外ガイダンス実施状況

平成22年度5年次生は、病院・薬局実務実習の実施時期と薬業関連企業希望者の就職活動時期が重複しています。キャリアサポート課では、「大学教育・学生支援推進事業 学生支援推進プログラム（文部科学省）」および「就職氷河期支援事業（大阪府）」の制度を利用し、土曜日にキャンパスポート大阪（大阪駅前第2ビル4階会議室）において、下記のとおり、実践的な「就活トレーニング」を実施しました。

記

- ① 1月15日(土)企業／エントリーシート  
希望者82人 参加者51人
- ② 1月29日(土)病院・公務員・薬局／エントリーシート  
希望者99人 参加者73人
- ③ 2月12日(土)企業／面接  
希望者92人 参加者54人
- ④ 2月26日(土)企業／グループディスカッション  
希望者87人 参加者30人
- ⑤ 3月12日(土)病院・公務員・薬局／グループディスカッション  
— —
- ⑥ 3月26日(土)病院・公務員・薬局／面接  
— —

## ①エントリーシート・履歴書セミナーおよびアドバイス・添削



内容	＜エントリーシート・履歴書の添削＞	
	自己分析について（講演）	90分
	エントリーシートについて（講演）	90分
	自己分析・エントリーシート（記入）	120分

## ②グループディスカッション・集団面接トレーニング



## 内容 ＜模擬集団面接＞

模擬面接（質疑応答）……面接官役（評価シート記入）	35分
カウンセラーから全体フィードバック（全体および個別の注意点指摘やアドバイス）	10分
ペア学生同士でのフィードバック	5分
＜グループディスカッション＞	
模擬グループディスカッション……（評価シート記入）	45分
カウンセラーから全体フィードバック（全体および個別の注意点指摘やアドバイス）	10分
ペア学生同士でのフィードバック	5分

## ③面接トレーニング



## 内容 ＜模擬面接＞

全体	25分
面接	15分＋カウンセラーからの講評 10分（個別の注意点指摘やアドバイス）
	学生面接官役からの評価（学生評価シートを基に面接受験者にフィードバック）

## ※キャリアサポート課（コメント）

今回、キャリアサポート課では初めて学外会場を借用して土曜日にガイダンスを実施しました。東日本大震災の影響により、3月開催分（2回）が5月に延期となりましたが、外部カウンセラー（試験官役）の協力もあり、参加した学生は、実践さながらのグループディスカッション、集団面接、面接のトレーニングを体験することができました。これらのガイダンスにより、自分自身の視点が広がり、就活のポイントを理解することができ、今後の就職活動に大いに活用してもらえればと考えています。

## 「地震・放射能・防災に関する図書コーナー」について

2011年3月11日に発生した国内観測史上最大規模となるマグニチュード9.0の東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）は、それに続く津波や原子力発電所事故による放射能汚染と相まって、岩手県、宮城県、福島県等に甚大な被害をもたらしました。私たちは自然災害の恐ろしさを改めて実感させられました。1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災以後、西日本では大きな地震は起きていませんが、いつどこでおこるかもしれない地震に備えて日頃から地震や防災の知識を深めておきたいものです。

図書館では、このたび3F「学術洋雑誌」展示棚の横に「地震・放射能・防災に関する図書コーナー」を特設しましたので大いに活用してください。



### ○主な新着図書・DVDの紹介（2011年4～6月）

区分	タイトル	著者
専門図書	薬剤師国試でる順医薬品	テコム薬学セミナー
//	シンプルに考える医療人としてのコミュニケーション	佐藤美智子
//	テーラーメイド医療－薬物治療の個別化－	古田 隆
//	問題解決型学習ガイドブック－薬学教育に適したPBLチュートリアルを進め方－	日本薬学会
//	目的別で選べるPCR実験プロトコール	佐々木博己
//	今日の治療薬 2011 -解説と便覧-	浦部 晶夫
//	やさしいエビデンスの読み方・使い方-臨床統計学からEBMの真実を読む-	能登 洋
//	研究室に所属したらすぐ読む安全化学実験ガイド	研究実験施設・ 環境安全教育研究会
//	バイオ研究者が知っておきたい化学の必須知識	齋藤 勝裕
//	電気泳動なるほどQ&A－今さら聞けない基礎知識＋原理を学んでトラブル解決－	大藤 道衛
教養図書	県庁おもてなし課	有川 浩
//	謎解きはディナーのあとで	東川 篤哉
//	麒麟の翼	東野 圭吾
//	ポリティコン（上、下）	桐野 夏生
//	凄い時代－勝負は2011年－	堺屋 太一
//	心を整える－勝利をたぐり寄せるための56の習慣－	長谷部 誠
//	世界を知る力	寺島 実郎
//	原発と日本の未来－原子力は温暖化対策の切り札か－	吉岡 斉
//	巨大地震災害へのカウントダウン－東海・東南海・南海地震に向けた防災戦略－	河田 恵昭
DVD	24 Twenty Four シーズン6～8（ファイナル）	J. サーナウ

ボタン *Paeonia suffruticosa* ANDR

薬用植物園長 田中 麗子

ボタン(牡丹、学名:*Paeonia suffruticosa* ANDR)は、ボタン科ボタン属の落葉小低木。または、ボタン属(*Paeonia*)の総称。学名の*suffruticosa*は亜低木状という意味である。中国名「牡丹」からの音読みが名前の由来である。以前はキンポウゲ科に分類されていたが、おしべ・花床の形状の違いから現在はシャクヤク(芍薬)とともにピワモドキ目に編入され、独立のボタン科とされている。花が豪華なことから、中国では「花王」とか「花神」と呼ばれていた。別名は「富貴草」「富貴花」「百花王」「花中の王」「百花の王」「天香国色」「深見草」「二十日草(廿日草)」「忘れ草」「鎧草」「ほうたん」「ほうたんぐさ」など多数。芍薬に比べて、花色が豊富。育成場所によって「中国」「日本」「西洋」ボタンに分けられる。牡丹は5月の誕生花で花の女王と言われている。花言葉は「王者の風格」または「富貴」。4月になると豪華で堂々とした花姿で我々を楽しませてくれる。

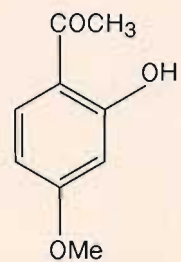
牡丹は高温多湿を嫌う。比較的冷涼な、日当りの良い場所に植えるとたいいてい土質で育つ。酸性の、肥沃な表土の深い少し粘土質を含んだ砂質壤土が理想的で、排水のよい、悪乾きしない土ならよく育つ。強い粘土質でしまる土には砂を混ぜ、砂質すぎる土は普通の土を混ぜるようにすると誰でも牡丹を栽培することができる。被子植物なので種からも育てられるが、開花まで時間がかかるので一般的ではない。そのため、流通する苗のほとんどは、芍薬を台木に接ぎ木にしたものである。鳥根県は日本一の牡丹の産地であり県花でもある。干拓が問題になっている鳥根県と鳥取県を隔てる中海に浮かぶ大根島(八束町)は、牡丹の一大産地であり、約三百年前、全隆寺の住職が遠州(静岡県)の秋葉山へ修行に訪れた時に薬用として持ち帰り、境内に植えたのが最初だと伝えられる。その品種はいまでは二百数十種にもなり、名実ともに全国一の産地である。

中国原産で、我が国へはいつ持ち込まれたか定かではないが、一説には聖武天皇の頃に遣唐使によって渡来したといわれる。平安時代以来、宮廷や寺院で観賞用として栽培され、江戸時代になると庶民の手に移り大ブームになり、元禄時代に多くの牡丹専門書が著された。中国では薬用として利用されていたが、盛唐期以降、牡丹の花が「花の王」として他のどの花よりも愛好されるようになった。たとえば、『松窓雑録』によれば、玄宗の頃に初めて牡丹が愛でられるようになったものの、当時は「木芍薬」と呼ばれていたと記載される。また、隋の煬帝や初唐の則天武后が牡丹を愛でたという故事がある。



原産地の中国では「花の王」として愛されてきた。しかし、元は薬用として栽培され、根の皮は消炎・鎮痛などの漢方薬の原料とされている。「立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花」。美人を形容する言葉としてよく知られているが、意外な意味がひそんでいるのである。実はこの言葉、症状に応じた生薬の使い方をたとえているのだそうである。芍薬、牡丹、百合は婦人病の生薬として使われ、牡丹は月経困難、便秘に効くとされる。また、根の樹皮部分は「牡丹皮(ぼたんぴ)」として、大黃牡丹皮湯、六味地黄丸、八味丸など漢方薬の原料になる。日本薬局方にも収録されている。降圧作用があるので、長期のストレスをとともう高血圧症・動脈硬化症に用いられる。また、消炎作用もあるため急性虫垂炎に用いられることもある。最近の研究では牡丹には女性ホルモンの分泌を調整する成分、子宮筋の異常収縮を抑制する成分、微小血液循環を改善する成分、などが含まれていることがわかってきた。薬効成分は、ペオノール(消炎・止血・鎮痛などに効く)で、他の成分としてフィトステロール、グルタミン、タンニンなど。なお、牡丹が木(灌木)であるのに対し、芍薬・百合は草(多年草)に分類される。

牡丹の有名な関西の庭園としては奈良大和の長谷寺、葛城市の当麻寺、石光寺、高市郡の壺阪寺、兵庫県の永沢寺、隆国寺、などがあり、いずれも一見の価値がある。また、多くの文人墨客が牡丹を愛し、たくさんの日本画を残してきた。なかでも大覚寺の壁画である狩野山楽「牡丹図」、葛飾北斎「牡丹に蝶」、速水御舟「牡丹」「墨牡丹」は殊に有名である。蕪村の句を1つ「ちりて後おもかげにたつぼたん哉」。一方、牡丹紋(ぼたんもん)は日本の家紋の一種。牡丹の花や葉を図案化したものである。



ペオノール(paeonol)